

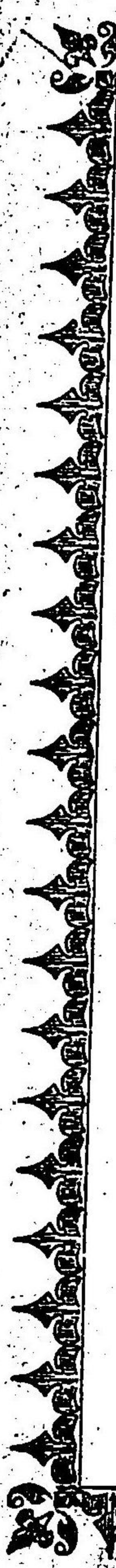


東國圖書印

如水先生題字 旭坊道人序  
稻葉永香跋 中村柳塢先生編著

# 森神槩論

大阪 駸々堂本店藏版



幽

子

Faint, illegible text on the right page, possibly bleed-through or ghosting from the reverse side.

知  
知

明  
治  
丁  
亥  
月  
如  
水

序

宇宙果焉無神乎曰否徵之於我邦之神與儒佛之典豈謂無神而可哉曰然則非與氏之說反耶曰否氏之所謂無神者非徒謂無神焉謂無耶蘇之所謂造物之神者也氏近與彼徒諍也舌戰百出猶未竭矣因相約彼此筆以質于

大方之諸彥是氏之所以有此撰也

明治二十年八月 旭坊道人

哲學一斑無神概論

柳塢 中村信次郎著



ルハ人類固有ノ原性ニシテ尙ホ小兒ノ飢ユ  
食物ヲ求メ渴スレバ湯水ヲ望ムガ如ク人アレバ宗教  
宗教アレバ人アリ吾人活眼ヲ滿天下ノ事情ニ注ギ我  
ノ形勢俄然トシテ變シ天下ノ事物卒爾トシテ改進シ明治  
年間ノ別天地ヲナスニ當ツテ人々皆度外視シテ顧ミズ偶  
々之ヲ論シ之ヲ説クモノアリト雖ヒ深ク其精神ノアル所

ナ看破スル能ハズ或ハ愚民ヲ瞞着スルノ方便トシテ之ヲ  
 退ケ或ハ小人ヲ勸懲スルノ空想ナリト評スルノ輩實ニ一  
 ニシテ足ラズ甲唱ヘ乙之ヲ和シ異口同音其迷妄ヲ稱シテ  
 己マズ然リト雖モ是レ皮想ノ見ノミ世ニ千里ノ馬アリト  
 雖モ伯樂微ツヒバ駑馬ト其伍ヲ同フスベシ卞和ノ璧アリ  
 ト雖モ玉人微ツセバ砂石ト其價ヲ等フスベシ千里ノ馬卞  
 和ノ璧ハ凡人ノ識別スルヲ得ザルナリ果シテ然ラバ從來  
 ノ宗教廣大無邊絶對無ニナル万動ノ苦惱ヲ濟度スルニ足  
 ル真正ノ宗教ナリト雖モ世人之ヲ認定スルヲ得ザルモ知  
 ルベカラズ否ヲ知ルベカラザルニ非ラズ實ニ認定スル能

ハザルナリ宜ナルカナ真理ハ庸才ノ得テ究ムル所ニアラ  
 ズ真正ノ宗教何ソゾ之ヲ識別スルヲ得ンヤ況ンヤ其真味  
 ナ咀嚼スルニ於テオヤ今試ミニ天下ノ人ヲ三等ニ分別シ  
 テ論ゼンニ下等社會ノ地位ニ居ルモノハ往々宗教ノ無カ  
 ラザル可カラザル所以ヲ悟リ泥中ニ蓮花ヲ求メテ之ヲ信  
 仰スルモノ少々ニアラズト雖モ彼ノ中等社會ヨリ上等社  
 會ニ至テハ之ト大ニ反對スルノ状態ヲ觀競フテ不祥物ト  
 ナシ方ニ之ヲ殄滅セントス宗教果シテ不祥ナルカ宗教果  
 シテ不祥ナルカ尤隣ノ徳ヲ知ラザル者ヨリ見レバ不祥ト  
 ナサンモ亦理ナキニ非ラズ宗教ノ徳ヲ知ラザル者ヨリ見

レバ不祥トナシ無用トナサンモ亦宜ナリ斯ク宗價ヲ下落  
 セシメ不祥タリ無用物ナリトナサシメタルハ抑モ誰ノ罪  
 ゴヤ惡ミテモ猶ホ餘アリ顧フニ無識膿味ノ獅虫輩宗内ニ  
 在リ道德専門ノ職掌ニ居ガラ道德ノ何物タルヲ知ラズ安  
 心ヲ口ニ稱ヘツ、夢ニモ安心ハ道德ノ原因タルヲ辨ヘズ  
 却テ安心ヲシテ造罪ノ據所タラシメ却テ彌陀ヲシテ誘惡  
 ノ首謀者タラシメ隨テ時勢風潮ノ進歩スルヲ知ラズ國政  
 民情ノ如何ヲモ顧ミズ靦トシテ故套墨守ノ汗濶ニ安ンジ  
 國歩ヲ妨ゲ法命ヲ進メ媚ヲ頑陋ノ愚夫愚婦ニ贈ルヲ旨ト  
 シ不品行不道德至ラザルナク腐敗シタル言説ヲ以テ真

乘ノ法体ヲ汚穢セシニヨリ遂ニ天下ノ耳目ヲシテ佛教臭  
 穢ノ感ヲ惹起セシムルニ至ルハ教理ノ惡シキニ非ラズシ  
 テ主教者ノ罪惡ナリト云フベキノミ豈ニ切齒憤慨ノ至リ  
 ラズヤ其之ヲ察セズ又教理ノ如何モ知ラズ唯ニ之ヲ方  
 便ト空想トニ販シテ度外視シ虚心平氣以テ其何物タルヲ  
 考究セズシテ宗教ハ不用ナリ無用ナリト云フハ又愚昧ノ  
 人ニアラズシテ何ゾ今宗教ハ人類固有ノ原性ナル所以ヲ  
 論ゼン

往昔無宗教者ウナルテール曾テ「アルプス」山ノ頂上ニ登ラ  
 ント欲スル屹兮其高サ測ルベカラズ峻兮タルト近ヅク可

カラズ少クアリテ疾風迅雷頻リニ起リ天地鳴動手足ノ在  
ル處ヲ知ラズ此時ニ當リテ「ウナルテール」我レヲ忘レ合掌  
以テ皇天ニ叫號セシト宜ナル哉鳥ノ將ニ死ナントスルト  
キ其鳴ク「悲シ人ノ將ニ死ナントスル時其言フ「善シト  
其言フ「フハミナラズ行ヒモ亦善シ如何ナル剛膽不敵ノ惡  
漢ト雖モ冤枉ニ遭ヒ窮阨ニ臨ミ訴フルニ所ナク述ブルニ  
人ナキトキハ旻天ニ向テ號哭シ又ハ彌陀ニ向テ訴フルヤ  
必セリ堯舜ノ大聖奈翁ノ英雄太閤ノ豪傑モ尙ホ然リ況ン  
ヤ此一聖一俊ニ劣ル者ニ於テオヤ然リト雖モ教育或ハ習  
慣ノ爲ニ教奉心ヲ抑制セラレ酒池肉林ノ樂ニ身ヲ委テ

美人艷女ノ海ニ沈溺シテ本ヲ忘レ之ヲ顧ミザルハ又笑止  
千万ナラズヤ凡ソ人事ナキトキハ香ヲ焚カズ事アルトキ  
ハ佛足ヲ載クト宜ナル哉言ヤ此俚諺説キ得テ頗ル妙ナリ  
夫レ此ノ如ク然リ果シテ然ラバ宗教ハ人類固有ノ原性ナ  
リト云フモ決シテ誣言ニアラザルナリ然リト雖モ猶ホ愚  
蒙ノ蠻民アリテ眞如法相ノ實體ヲ見ル能ハザル者モアル  
ベシト雖モ茲ニハ單ニ宗教ノ有用不用ヲ論ズルナレバ  
他日眞如法相ノ實體ヲ詳論スベキナリ  
前述ノ如ク論シ去リ論シ來レバ論者ト雖モ宗教ノ如何ヲ  
覺悟スルナラン然レモ尙ホ未ダ宗教ハ無用ナリ不用ナリ



ト云フナラバ廣ク宇内ノ實証ヲ舉ゲテ示サン  
 抑モ宗教ハ自然法ニシテ偶然法ニアラズ如何トナレバ若  
 シ果シテ宗教ハ偶然法ニアリトスレバ人類中ニ更ニ其念  
 ナキモノ多カルベシ又人類ノ歴史中ニ更ニ其念ナキ時代  
 モナカル可カラザルナリ然ルニ歴史中著名ナル事實ハ何  
 レノ時代ニ於テモ宗教アラザルナキハ一事ナリ歴史ノ  
 未ダアラザル初代ニ溯ルモ初人ノ遺跡中最モ著名ナルハ  
 宗教ニ關スル器具ナリ勿論其宗教ノ形狀ハ種々其趣向ヲ  
 異ニスルアリ又時々之ニ盛衰ナキニ非ラズ且ツ時ニ宗教  
 ニ淡泊ナル人ナキニ非ラズ是唯小數ノ人ナルノミ又今日

日ノ有像教ト  
 佛敎ト別  
 伊テ傳ルヤ

世界万国何ノ處ニ至ルモ宗教ノ行ハレザルナク文明人モ  
 野蠻人モ共ニ宗教ヲ信奉セリ此例証ニ因リ熟思玩味スル  
 ニ至レバ吾人ノ説ノ無ナラザルヲ察知スルニ至ルベキナ  
 リ然リ而シテ宗教ニモ種々アリ回々教アレバ猶太教アリ波  
 羅門教アリ或ハ偶像教アリ或ハ耶穌教アリ或ハ佛敎ア  
 リ此ノ如ク宗教多數ナレバ就中勢力ヲ有スルモノハ佛耶  
 二教トス而シテ耶穌教ニ於テハ我佛敎ヲ以テ空理ナリ空  
 想ナリ愚民ヲ瞞着スルニ過ギズシテ真正ノ宗教ニアラズ  
 ト論シ又佛敎ニ於テモ耶穌教ノ所謂天帝ハナキモノナリ  
 邪教ナリト講シ何レカ真ナリヤ偽ナリヤ未タ知ルベカラ

ズ爲ニ世人ヲシテ岐路ニ迷惑セシムルニ至ル是レ當局者  
 ノ責任ニアラズシテ何ゾ是ヨリ本論ヲ研究セント欲ス  
 往昔希臘國ニ「ダイナニシヤス」ト云ヘル鴻儒アリ當時ノ君  
 王一日之ヲ朝ニ召シ天神有無ノ説ヲ問フ「ダイナニシヤス」  
 直ニ之ニ答ヘント欲シテ答フル能ハズ己ムヲ得ズ一日ノ  
 猶豫ヲ請求シ明夜ハ必ズ否ヤノ返答ヲサント約束シテ  
 退散セリ既ニシテ翌日ニ至リ日己ニ晩ル、ニ垂ントシテ  
 尙ホ未ダ斷然タル決答ヲナス能ハズ因リテ更ニ三日間ノ  
 延引ヲ願ヒ一家ニ閉居シテ深思熟考シタルモ猶ホ之ヲ判  
 決スル能ハズ更ニ三日間ノ猶豫ヲ乞ヒタルモ獨リ之ヲ了

解スルヲ得サリシノミナラズ愈々之ヲ研究スレバ愈々之  
 ガ疑惑ヲ増加シ遂ニ第七日ニ到リ此問題ハ到底「ダイナニ  
 シヤス」ノ能ク答辨スル所ニアラザル所以ヲ奏聞シタリト  
 云フ亦此問題ガ往昔ノ識者ヲ困メタルヲ知ルニ足ラン  
 實ニ天帝在否ノ論ハ曖昧ノ疑問ニ属シ在リト云ヘバ在ル  
 ガ如ク無シト云フ者アレバ又之ニ同意ス可キガ如シ斯  
 ノ如ク十指十目其在否ヲ判斷スルヲ能ハザルガ故ニ世人  
 或ハ深ク研究セズシテ其在否ヲ信用シ或ハ其不在ヲ主張  
 シ互ニ自己ノ僻説ヲ固守シテ毫モ譲ラザルニ至ル想フニ  
 此際充分ニ之ヲ研究シ眞正ノ答辨ヲ爲スハ世ニ學者ヲ以

其自ラ任ズル者ノ職分ニアラズシテ何ゾヤ歐米諸國ニ在  
 テハ文化大ヒニ上進シ其政治ノ如キモ漸ク完美ノ域ニ向  
 ヒ言論出版或ハ集會ノ自由ノ如キハ政府ニ於テ力ヲ盡シ  
 テ之ヲ擁護シ安全鞏固ノ地位ニ置クガ故ニ夫ノ政府ノ爲  
 ニ檢束スル所トナリテ自由ニ自己ノ意見ヲ公衆ニ吐露ス  
 ルコトナシト雖モ「ミル氏」ノ所謂社會ノ壓制ナル者アリテ冥  
 々ハ際ニ人民ノ口舌ヲ杜絶スルナキヲ保ス可カラザルナ  
 リ因リテ泰西ニ於テハ胸中ニ斷乎トシテ無神ノ説ヲ信ズ  
 ルモ社會ノ壓制ヲ恐怖シ敢テ公然ト有神論ニ疑惑ヲ下サ  
 ズ況ンヤ無神論ヲナスニ於テハ忽チ世人ノ擯斥スル所ト

編中之主  
眼

ナリテ復タ一人ノ之ト齒スルヲ愧ヂザル者ナキニ至ルコ  
 恰モ我國ニ於テ孝悌忠信ハ社會ノ定論ニシテ之ニ反對ス  
 ル者ハ忽チ世ノ擯斥スル所トナルガ如シ若シ我邦人ニシ  
 テ兄ニ悌タルハ本邦人ノ常ニ唱道スル所ナルノミナラズ  
 世ノ士君子ハ一日トシテ之ヲ實行セザルコトナシト雖モ是  
 レ一種ノ慣習タルニ過ギザレバ孝ヲ爲スモ果シテ善ナリ  
 トナス可ラズ悌ヲ爲スハ必シモ善ナリキ未ダ容易ニ知ル  
 可ラズ哲學上ノ道理ニ比照シテ見ルトキハ或ハ不孝不悌  
 ハ却テ善ナルガ如シ因テ是ヨリ慣習僻ニ拘泥セズ斷然一  
 機軸ヲ出シテ道德ヲ改良シ親ニ不孝ヲナシ兄ニ不悌ヲナ

サントスト云ハ、聽ク者又ハ讀ム者ハ未ダ詳カニ論ズル者ノ主義ヲ聽カズ忽チ激昂シテ之ヲ排斥シ以テ惡人トナシ非人トナシ直接ニ或ハ間接ニ種々ノ譴責ヲ蒙ラシムベキナリ之ト同シク泰西ニ於テ輿論ニ反對シ盛ニ天帝有無ノ議論ヲナシ大ニ之ガ存在ヲ疑惑スルコトアラバ一朝ニシテ世人ノ排斥スル所トナリ復タ尋常ノ交際ヲモ爲ス能ハザラン現ニ日本人民ガ囊ニ充分ナル貯蓄ナクシテ海外ニ至リ外國人ノ仁慈心ニ依頼シテ其生計ヲ立テントスルヤ外國人ハ直ニ之ニ勸メテ耶蘇教徒タラシメ之ニ天帝ノ有ルコトヲ信仰セシメントス而シテ彼レ之ニ應ズレバ忽チ縉

紳ノ待遇ヲ受ケテ非常ノ厚恩ニ預カルヲ得ベシト雖モ之ニ應ジテ天帝存在スルコトヲ承認セザル限リハ殆ンド牛馬ト相異ラザルノ冷遇ヲ受ケントシ己ムヲ得ズ化シテ耶蘇信者トナル者六七年前迄ハ往々之アリタルニ非ズヤ否ナ現時ト雖其習慣ヲ脱スルコト能ハザルニ非ズヤ亦以テ有神論ノ勢力アルヲ知ルベシ是ヲ以テ泰西ノ人ハ往々無神ノ説ヲ抱有スルアリト雖モ敢テ斷然之ヲ發露スル能ハズ之ヲ發露スレバ交際ノ境域ヲ狹隘ニシテ爲ニ非常ノ不都合ヲ感ズルヲ以テ口ヲ開テ大ニ天帝在否ノ論ヲナスコトヲ得ザルヲ如何センヤ亦一大不幸ナリト云フ可キナリ

幸ニシテ我日本ニテハ猶ホ未ダ盛ニ此問題ヲ討議シタル  
 一ナキヲ以テ各々一方ニ樹立シテ互ニ鎗鋒ヲ削ルニ至ラ  
 ズ因テ一般人民ノ間ニ於ル又其識者學者ノ間ニ於ケル熱  
 心ニ有神ノ説ヲ唱道スル者少シ無神ノ論ヲ主張スル者少  
 ナケレバ何レノ論モ社會一般ノ賛成輔翼ヲ得サルヲ以テ  
 反對ノ主義ヲ滅却スルノ勢力ナシ斯ノ如ク一般人民カ至  
 冷至澹ニシテ猶ホ偏頗ナル一方論ニ陷ラズ其判断力ハ依  
 然トシテ其靜穩ヲ保持スルヲ機會トシテ詳細ニ此問題ヲ  
 討究シ敢テ自カラ誤謬ニ陷ラズ又他人ナシテ迷妄ニ沈淪  
 セシメザルヲ要スルナリ苟モ然ラズ我邦ノ人民ハ此有神  
 本論之時  
 機于此在  
 乎

先局者之  
 責任

無神ノ問題ニ就テ熱心セザルヲ以テ決シテ僻説ヲ信スル  
 ナク虚心平氣ニテ之ヲ判断スルナラント云ヒテ之ヲ自然  
 ニ放任セハ泰西有神ノ説ハ知ラズ識ラズノ際我邦ニ侵入  
 シ遂ニ之ガ腦髓ヲ支配シ遂ニハ公平ノ議論ヲナスモ容易  
 ニ解シ難ク入り難キニ至ラン然ラバ則チ今ニシテ之ガ討  
 論ヲナシ其未ダ輿論ノ勢ヲ得ザルニ先チテ之ガ黑白邪正  
 ナ點檢シ以テ大方ニ質サバ爾可ラザルナリ抑モ天帝即チ  
 「ゴット」ト云フ文字ハ三箇ノ意義ヲ有スルガ如シ或ル有  
 神論者ハ曰ク凡ソ物原因ナクシテ起ル者アラズ今此宇宙  
 ナ見ルニ日月ノ耀ク所以星辰ノ運ル所以河海江流ノ流ル

ル所以萬物ノ構造萬物ノ働作ヲ見レバ必ズヤ之ヲ創造シタルノ原因アルヲ信ズベシ我ハ此原因ヲ稱シテ造物主ト云ハノ或ハ天帝ト云ハノ然レモ彼レ造物主即チ天帝ハ如何ナル者ナルカハ毫モ之ヲ推測スル能ハザルナリト此説ニ因レバ天帝トハ此宇宙以外ノ原因ニシテ此宇宙ヲ創造シタル者ヲ稱名スト雖モ其性質ヲ説カザル以上ハ天帝ハ即チ或ル原因ナリト云フ迄ニ過ギズ是レハ通俗ニ所謂天帝トハ其趣キヲ異ニス或ハ曰ク天帝トハ此宇宙ノ外ニ成立シテ此宇宙ヲ創造シタルニハアラズ宇宙ハ即チ天帝ナリト此説ニ因レバ天帝ハ造物主ニ非ズシテ此宇宙ヲ稱スル者ナリ是モ通俗ニ所謂ル天帝トハ其意義ヲ異ニス而シテ通常ニ使用スル所ノ意味ニ由レバ天帝トハ實ニ此宇宙ノ成立スル以前ヨリ存在スル所ニシテ此宇宙ヲ創造シタル原因ナリ而シテ其性質タルヤ人物ノ五官ヲ以テ定カニ之ヲ見ルコトヲ得ズ此道理ヲ以テ之ヲ推測スル能ハズト雖モ人類ガ時計若クハ蒸氣器械ヲ製造スルガ如クニ此宇宙ヲ創造シタリ而シテ人類ニハ一種特別ナル靈德即チ精神ナル者ヲ賦與シ若シ人類ガ現世ニ在リテ道德ヲ遵守シテ懈怠スルコトナクンバ天帝ハ之ヲ喜ビ死後之ヲ天堂ニ誘引シ若シ極惡非道ニシテ懺悔スルコトナクンバ天帝ハ之ヲ怒

弄花曰  
人神同体  
之說真可  
謂妙論

リ之ヲ地獄ニ陷落シテ之ヲ懲罰セントスルハ是レ疑ヲ容  
ル可キニアラザルナリト此說ニ因レバ天帝ハ宇宙ヲ創造  
スルノ原因ニシテ其情ニ悲喜アリ其能ニ工夫アリ而シテ  
或ハ之ヲ罰シ或ハ之ヲ賞スルト恰モ人間社會ハ司法官ガ  
勸懲ヲナスニ異ナラズトス此說ハ寧ロ人神同体ノ說ト云  
フテ可ナルガ如シ

想フニ第一第二ノ意味ヲ以テ天帝ハ存在スル者ナリト云  
フノ說ハ果シテ信ズ可キカ果タ信ズ可カラザル乎是レモ  
哲學上ノ疑問ニ屬シ容易ニ之ガ判斷ヲ下ス能ハザル緊要  
論題ナレト吾人本論ヲナスノ目的ハ主トシテ第三ノ意味

ニテ用ヒタル天帝即チ通常耶穌信者ノ所謂神ナル者ノ存  
否如何ニ向テ充分ニ議論シ夫ハ第一第二ハ之ヲ措テ他日  
ニ讓ル覺悟ナリ然レモ一應之ヲ熟思セズンバ將來ノ論辨  
上ニ不都合ヲ生ズルノ恐アルヲ以テ簡單ニ之ヲ批評シ而  
シテ後本論ヲ研究セント欲スルナリ

第一ノ意味ニテ天帝ヲ解釋シ此天帝ハ在ラザル可ラズト  
云フハ是レ甚ダ適當ノ議論ナリ目以テ之ヲ見ル能ハズ耳  
以テ之レヲ聞ク能ハズ鼻以テ之ヲ嗅ク能ハズ舌以テ之ヲ  
味フ能ハズ膚以テ之ニ觸ル、能ハザルノ天帝ノ性質ヲ臆  
測シテ妄リニ之ヲ信用スルハ蓋シ僭越ノ所爲ト云フ可キ

ナリ。假令心中ニ於テ斯クノ如クナルベシト思惟スルモ實地ニ之が存在シ目撃セズ又實地ニ目撃シタルト同一ノ確證ヲ與ヘザル以上ハ如何ニシテ其思想ノ信ナルヲ期ス可ケンヤ然ルニ今天帝アレハ其性質ハ夢ニダモ想像スル能ハズト云フハ道理上ニ於テ甚ダ取ルベキ者アルガ如シ然リト雖此論者ガ此不可思議ナル者ヲ呼稱シテ天帝トナスハ怪ムニ足ルベキナリ夫レ萬物ヲ創造シタルノ原因ハ定カニ之ヲ見聞スル能ハザルモ其心中ニ於テ必ラズヤ人類ノ如クナルベシトカ帝王ノ如クナルベシトカ思惟スルハ確信アレバユソ此原因ヲ稱シテ天帝ト云フ可ケレ其性

以不可思議之物爲天帝可謂妄迷論者已

質ハ有形ナルヤ無形ナルヤ大ナリヤ小ナルヤノ考察附カザル者ニ向テ天帝ト云フ名稱ヲ以テシ強テ天帝ハ則チ在リト論ズル方便ノ上ニ於テハ或ハ都合善カルベシト雖モ道理上ヨリ觀察シテ決シテ穩當ナリト云フ可カラザルナリ宇宙ニハ原因アラン然レモ其性質ハ思議ス可カラズト云フベキナリ此不可知物ヲ名ケテ天帝ト云ヒ或ハ天帝アリト云フハ牽強附會ノ說ニアラズシテ何ゾヤ故ニ吾人ハ此論ヲ目シテ有因論者ト云ヒ有神論者ト呼バザルナリ寧ロ無神論者ト云ハンノミ但ダ原因ノ知ル可ラザル者アリテ此宇宙ヲ創造シタリト云フノ一点ハ毒ニモナラズ藥ニ

江川曰  
有因論奇  
說妙論亦  
編中之一  
大要点也



モナラザル議論ト云フ可シ

第二ノ論者ノ所謂天帝論ヲ批評センニ此説タル是レ全ク人心ノ信仰ニ基因シ適當ノ實證ヲ舉ゲテ之ヲ支フルト能ハザルニヨリ宇宙現存ノ物質ハ皆天帝ノ精神ナル乎而シテ宇宙ノ外ニ天帝ナク則チ人類ノ耳目ニ宇宙トナリテ現出スル者ナル乎之ヲ證スルト能ハザルナリ且ツ又假令天帝ハ即是レ宇宙ナリトナスモ猶ホ未ダ吾人ノ探理心ヲ満足セシムル能ハズ若シ夫レ然ラバ如何ナル故ニ此宇宙即チ天帝ハ發生シタリヤノ問題未ダ決答ヲ得ザルガ故ニ又別ニ之ヲ發育シタルノ原因ヲ探索セザルヲ得ザルナリ果

シテ然ラバ此意味ノ天帝ハ萬物ノ本源トナルベキ萬能ノ創物主タルヲ得ザルニアラズヤ故ニ論者ガ適當ノ考證ヲ舉示シテ以テ此世界ハ自カラ起因シ決シテ他ノ原因ヲ得テ生ジタルニアラザル所以ヲ明ニセザル以上ハ此意味ニシテ用ヒタル天帝モ亦タ之レアリト云フヲ得ザルナリ即チ宇宙ハ則チ活神ナリトシ此天帝ハ則チ實際ニ現存スト云フハ蓋シ無據ノ議論ト云フベキナリ

至是有神  
論第二陣  
討破

是ニ因テ之ヲ見レバ第一ノ議論ハ道理ニ於テ甚ダ可ナレトシテ不可知物ヲ稱シテ天帝トナスニ至リテ不穩ナリ第二ノ議論ハ適當ノ證據モナク宇宙ヲ以テ活神トナシ宇宙ノ現

存ヲ以テ天帝ノ現存トナシタレバ亦タ穩當ナラザルガ如シ因リテ之ヨリ本論ニ入り所謂耶蘇教徒ノ天帝ナル者ハ果シテ存在スルヤ否ヤヲ論究セントス

吾人ハ實ニ耶蘇教ノ所謂ル天帝ノ存在ヲ信ゼザル者ナリ然レモ尋常ノ論客ノ如ク有神論者ノ由テ以テ金城鐵壁トナスノ議論ハ何ノ邊ニアルカヲモ知ラズ又假令之ヲ聞クモ之ヲ了解スルニ足ルノ學識ヲ有セザルガ故ニ之ヲ咀嚼玩味スル能ハズシテ徒ラニ天帝ノ不在ヲ唱導シ從テ耶蘇教ノ據ル處ナキヲ主張スルモノニハアラズ吾人ハ極メテ平心ニ此天帝在否ノ問題ヲ研究シ自カラ有神論者ノ地位

ニ立テテ其得意ノ論点ヲ咀嚼シ又無神論者ノ地位ニ在リテ其要点ヲ玩味シ而シテ彼此ヲ比較シテ思慮ヲ費シタルニ其結果タル到底天帝ノ存在ヲ信用スルコト能ハザルニ歸着セリ讀者諸彦幸ヒニ吾人ノ議論ヲ以テ咄嗟ノ際ニ作出シタル者ナリトナス勿レ吾人ハ今我無神ノ說ヲ論ズルニ先ダテ此ニ有神論ノ中ニ就テ最モ勢力アル者ヲ舉示セン此說タルヤ蓋シ往昔ノ碩學ノ一般ニ信仰シタル所ニシテ若シ様大ノ筆懸河ノ辨ヲ以テ之ヲ主張シタランニハ其耳目未ダ近世ノ新主義ニ慣熟セザル者ハ其學識衆ニ超ルト雖モ之ガ爲ニ感動セラレントスル有様アリ然レモ増サズ

減セズ其眞休ヲ吐露スレバ蓋シ左ノ如クナルヲ信ズルナ  
リ

彼有神論者ハ曰ク凡ソ物トシテ原因ヲクシテ起ル者ハア  
ラズ我が宇宙ノ如キモ必ラズ之ヲ製造シタルノ原因アル  
ニ相違ナキナリ是レ識者ノ一般ニ是認スル所ナルガ故ニ  
此点ニ向テハ説明ヲ要セザルベキナリ唯ダ議論ノ岐ル  
所ハ余輩有神論者ハ此原因ヲ以テ不可知的トナサズ假ヒ  
明瞭ニ之ヲ知ルヲ能ハズト雖モ幾分カ之ヲ推察スルヲ得  
ルトナシ彼ハ否ラズトナスニ出ルナリ而シテ余輩有神論  
者ニ此原因ハ如何ナル者ナリヤ如何ナル性質アリヤト問

讀者之注  
意

ヘバ答テ曰ハン第一ハ全智全能ナルニ相違ナシ第二ハ大  
慈大悲ナルニ相違ナシ第三ハ最モ公平ニシテ最モ嚴格ナ  
ルニ相違ナシ而シテ人類ニ身体ト共ニ死セザルノ精神ヲ  
賦與シ惡キ者ハ死後之ヲ罰シ善良ナル者ハ死後之ヲ賞ス  
ルヤ疑フベカラズ第四此原因ハ多數ニアラズシテ單一ナ  
ルニ相違ナシ此四個ノ性質ハ則チ余輩ガ道理上ニ於テ天  
帝ノ存在スル所ヲ信ズルヲ得ルナリ此他千萬ノ性質ヲ有  
スルナルベシト雖モ是ハ實驗ニ於テ又道理上ニ於テ人類  
ノ推知スル能ハザル部分ニ屬セリト  
又曰ク此原因ノ此性質ヲ有スルト云フハ乃チ天帝アリト

云フナリ而シテ天帝アリト云フハ愚夫愚婦ヲ誘導ス  
 ル爲ニ設ケタルノ方便ニモアラズ又適當ノ證據モナキ空  
 想ニアラズシテ深思熟考ノ結果ニ外ナラザルナリ論者若  
 シ之ヲ疑ハバ余輩ハ確證ヲ舉テ之ヲ示サン然レモ此事ヲ  
 ナスニ先ダナ一言以テ論者ノ注意ヲ引ク可キナリ何ゾ  
 ヤ曰ク確證トハ必シモ耳目ノ保證ヲ云フニ非ラズ例ヘバ  
 人アリ西洋ノ一都府ニ至リ其人民ガ巧ミニ金殿玉樓ノ建  
 築ニ從事スルヲ見レバ此家屋ハ熟練ナリ工夫アル人類ノ  
 作出スル所ナリト云フ證據ニシテ又疑フベクモ非ラズ然  
 レモ假令實地ニ家屋ノ建築ヲナス人ヲ目撃セザルモ其家

耶蘇教徒  
 之持論

屋ヲ目撃スレバ斷然之ガ建築家アリタルヲ知ルヲ得ン而  
 シテ此家屋ノ結構位置美ヲ盡シ善ヲ盡スヲ見レバ假令其  
 人ニ接見セザルモ其人ノ築造ニ巧妙ナルヲ知ルベキナリ  
 是以果證因即チ結果ヲ以テ原因ヲ證スト云フ一種ノ確證  
 ニシテ夫ノ五官ノ直證ト同一ノ確然ヲ有スルナリ又茲ニ  
 一大時計アルヲ見レバ假令實際ニ人ノ之ヲ製造スルヲ見  
 ルヲキモ之ヲ製造シタル人アルヲ信用スルヲ得ベク而シ  
 テ此時計ノ諸部分相互ノ關係並ニ部分ト全体トノ關係其  
 宜シキヲ得テ能ク時計タルノ用ヲナスヲ見レバ假令其人  
 ナ見ザルモ其甚ダ熟練アリ智慧アリ工夫アル技術家タル

ナ知ル可クシテ復タ疑フ可カラザルコト恰モ肉眼ヲ以テ其  
 人ノ製造ニ從事スルヲ見タルト同一ノ信用ヲナス可キニ  
 アラズヤ果シテ然ラバ余輩若シ或ル事物ノ存在ヲ主張ス  
 ルニ當リ他人ヲシテ之ヲ覺悟セシメントスルヤ必ラズシ  
 モ實地ニ此事物ヲ論者ニ舉示スルヲ用ヰズ時アリテハ其  
 果ヲ目撃セシメ間接ニ之ヲ證スルコトヲ得ルコトアリ實ニ一  
 モ耳目ニモ口鼻ト事物ノ存否ハ一ニ五官ニ因リテ之ヲ決  
 スレバ人類ノ見聞智識ハ決シテ今日ノ如ク夫レ廣キヲ得  
 ザルナリ彼木石ノ無情ニシテ人類ノ有情ナルハ論者ノ信  
 シテ疑ハザル所ナレバ此信用ハ是レ單ニ耳目ノ保證ノミ  
 ニ依頼シタルニ非ズシテ以果證因ノ結果ナラズヤ如何ト  
 ナレバ情ハ無形ニシテ五官直覺スル能ハザル所ナレバ之  
 ガ有情ヲ決斷スルハ他ノ手段ニ依頼セザルヲ得ズ即チ有  
 情物ハ聲ヲ揚ゲテ笑フアリ涙ヲ揮テ哭スルコトアリ顔色ヲ  
 變シテ怒ルコトアリ故ニ此ノ如キ有形ノ舉動ヲナス者アレ  
 バ之ヲ推シテ是ハ有情ナリトナシ斯ノ如キ舉動ナキ木石  
 ハ則チ原因ナル情ナシト推察スルニアラズヤ又木石ハ智  
 ナク動物ハ智アリ動物中ニモ智愚ノ別アリ人類ノ中ニモ  
 亦智愚ノ別アリト云フコトハ論者ト雖モ信シテ疑ハザル所  
 ナルベシ然レバ此區別ハ如何ニシテ信ズルヲ得タリヤ元

來智愚ハ無形ニシテ耳目ノ觀察スル所ニアラズ故ニ若シ  
 五官ノ保證スル所ニ非ザレバ之ヲ信用セズト云バ此區別  
 モ亦據ル所ナシト云ザルヲ得ザルナリ如何トナレバ物ノ  
 無智有智人ノ賢愚ヲ判斷スルハ直接ニ耳目ノ保證ニ基ク  
 モノニ非ラズシテ唯其結果タル舉動ノ宜シキヲ得ルト否  
 ラザルトニ因テ之ヲ推察スルニ過ギザレバナリ此他論者  
 ノ信シテ疑ハザル諸說中ニ於テ耳目ノ保證ニ基カズ此推  
 果知因ノ結果ニ出ル者甚ダ夥シキヲ察スルナリ然ラバ則  
 テ目ニ一物ノ存在ヲ見ザルモ之ヲ保證スルニ足ルト云フ  
 一ハ論者ト雖モ決シテ異議ナキヲ信ズルナリ然リ而シテ

余輩ハ天帝アリト揚言スト雖モ余輩自カラ天帝ノ昔容ヲ  
 見聞シタルニ非ザレバ無神論者ナシテ實地ニ之ヲ見聞セ  
 シメテ確證スル一能ハズ余輩ノ由テ天帝存在論ノ證據ト  
 ナスハ果チ以テ因ヲ證スルヨリ外ナラザルナリ故ニ輕忽  
 ニシテ深思熟考セザル論者ハ實際ニ天帝ヲ見ザレバ如何  
 ニ他ノ理論ヲ以テスルモ到底之ヲ信用スル一能ハズトナ  
 シテ余輩ノ說ヲ聞カザルニ至ラン然レモ前述ノ議論ヲ咀  
 嚼スルノ論者ハ幸ニ余輩ガ五官ノ直證ヲ與フル能ハザル  
 ナ以テセズ余輩ガ他ノ方法ニ因テ之ヲ保證スル所ヲ平心  
 ニ之ヲ翫味セラレヨ更ニ一步ヲ進メテ活眼ヲ開テ宇宙萬

物ノ構造ヲ見ヨ仔細ニ之ヲ點檢スレバ必ズヤ之ガ創造者  
ノ仁ト智トヲ兼タル單一ノ原因タルヲ知ルベキナリ試ミ  
ニ下等動物ノ身体ト其情性トヲ觀察スレバ其外界ニ於テ  
必ラズ之ニ應ズル者アリ例ヘバ

第一見ルカアル目ナレバ見ルベキノ境界アリ聞クカアル  
耳アレバ聞クベキノ境界アリ又食欲アレバ食ス可キ  
ノ物アリ飲欲アレバ其外界ニ飲料アルガ如シ是レ豈  
ニ余輩ヲシテ動物ノ身体性情ハ偶然ニ起リタルニア  
ラズ蓋シ天帝ガ此外界ヲ作り從テ之ニ適當スルノ身  
体性情ヲ創造シテ以テ動物ノ利益ヲ謀リタルナリト

想像セシムルニアラズヤ

第二且ツ又各種ノ土地氣候ニ生息スル動物ヲ見ルニ其身  
体嗜欲ハ皆其居ル所ノ風土氣候ニ適ヒ熱帶地方ノ動  
物ハ此地方ノ氣候ニ適合スルノ身体ヲ有シ此風土ヨ  
リ生ズル產物ヲ欲スルノ情性アリ温帶地方ノ動物ハ  
其風土氣候ノ満足セシムルノ足ルベキ情性身体ヲ有  
シ決シテ寒帶ノ風土ニ適スル者ノ熱帶ニ生シ温帶ノ  
風土ニ適スル者ノ寒帶ニ生シテ不都合不自由ヲ感ズ  
ル如キ有様ナキヲ見レバ是豈ニ余輩ヲシテ動物ノ身  
体性情ノ異ルハ偶然ニアラズ造物主ガ氣候風土ニ應

シテ之ヲ異ニシ而シテ地球上ニ向テ適當ニ之レガ分配ヲ爲シ以テ動物ノ幸福ヲ謀レリト想像セシムルニアラズヤ

第三又動物ト植物トノ關係ヲ見ルニ動物中ニハ腹飢ユル

キハ植物ヲ食ヒ身病ムトキモ亦植物ヲ食フテ自カラ療治スルノ天性ヲ有スル者多キヲ見ルモ亦是同シク余輩ヲシテ此天性ノ由テ來ル所ハ偶然ニアラズ之ヲ蕃殖スル爲ニ天帝ノ賦與シタルナラント想像セシムルナリ實ニ道理モナク無我無識ナル動物ガ其疾病ニ際シ其周圍ニアル種々ノ物ノ中ヨリ獨リ自己ノ疾病

ヲ癒スニ足ル所ノ草木ノ葉ヲ撰出シテ其他ヲ捨ルハ亦以テ天帝ガ間接ニ其利益ヲ謀リテ其舉動ヲ左右スルハ的例ニアラズシテ何ゾヤ

第四近世ノ化學上ノ發明ニ依レバ植物ト動物トハ或ル關

係ヲ有シ植物ノ酸素ヲ吐クハ動物ノ其生ヲ保ツ所以ナリトスレバ是又偶然ニアラズ特ニ動物ノ幸福ヲ目的ニシテ創造シタルモノニアラズヤ

第五夫ノ移住動物ハ無學無識ナルニモ拘ハラズ常ニ自己

ノ身体ニ適スルノ風土ニ移住シ氣候ヲ慕フテ知ラズ識ラズノ際身ノ健全ヲ謀ルノ天性ヲ具備ス夫レ人類



ガ野ヲ去リテ官ニ就キ大坂ヲ去リテ有馬ニ行クハ是  
 道理ニ因リテ此舉動ヲナシ以テ身ノ利益ヲ謀ルナレ  
 凡無識者ノ下等動物ガ此利益アル所ニ赴イテ利益ヲ  
 キ所ヲ去ルハ是偶然ト云フベキ乎又同ジク天帝ガ此  
 幸福ヲ謀リテ之ニ其安全ヲ保護スルノ天性ヲ賦與シ  
 タルナラシト想像スルニアラズヤ夫レ斯ノ如ク宇宙  
 ノ構造ヲ見ルニ一トシテ動物ノ用ヲナサザルナシト  
 スレバ何ゾ之ガ創物者ハ假令目ニ之ヲ見ル能ハザル  
 モ其大智大能ヲ以テ動物ノ爲ニ此森羅萬象ヲ作出シ  
 タリト推論セシムルニアラズヤ特ニ動物ノ最上等ニ

位スル人類ノ如キハ其身体ニ無用ノ部分ナク目アレ  
 バ見ルベキノ美色アリ耳アレバ聞クベキノ美音アリ  
 テ之ヲ悦バシメ飲欲アレバ之ニ應ジテ飲ムベキノ美  
 酒アリ食欲アレバ味フベキノ美羞アリ以テ之ヲ樂シ  
 マシムルノミナラズ其知識ハ他ニ超越シテ遠大ヲ極  
 メ能ク事物ノ理ヲ了解シ之ヲ實地ニ應用シテ其幸福  
 ヲ得ルトスレバ夫ハ天帝ハ特ニ人類ニ向テ利益ヲ與  
 ハント云フ目的ヲ以テ此構造ヲナシタリト云フモ蓋  
 シ之ヲ駁撃スルニ足ルハ證ナキヲ信ズルナリ然バ即  
 チ此宇宙ヲ創造セル者ハ非常ノ工夫ヲ以テ動物ノ利

益ヲ謀リテ此天地ヲ作出シタルヤ復タ疑フベクモア  
 ラザルナリ是レ即チ天帝ニ第一ハ性質大知恵大工夫  
 アル所以ヲ證スル事實ハ一斑ナリ然リ而シテ之ニ加  
 フルニ此說ヲシテ信然ナラシムレバ果チ以テ因ヲ推  
 シ天帝ハ仁慈ナルヲ演繹スベキナリト試ニ此地球上  
 ニ於テ人ノ善惡慈悲無慈悲ヲ判斷スレバ何ニ因リテ  
 之ヲナス乎ヲ見ルニ耳目ヲ以テ直チニ之ヲ觀察スル  
 能ハザルガ如シ唯其人ノ親戚朋友ニ對シ又一般ノ人  
 類ニ對シテ發表スル所爲ノ如何ニ因リテ判斷スルノ  
 外ナカル可キナリ甲者アリ他人ノ爲ニ財產ヲ擲ケテ

道路橋梁ヲ架シ以テ其交通ノ便宜ヲ謀リ他人ノ爲ニ  
 艱難ヲナシテ學校ヲ建築シ書籍ヲ購ヒ以テ教育ノ進  
 歩ヲ謀ル等ノ有形ノ所行ヲナス者アラバ嗚呼彼ハ恩  
 人ナリ仁人ナリト云フナラン又假令バ茲ニ飢餓凍餒  
 ニ迫ルノ貧民アリ家内擧テ且ニ死ナントスルノ際毎  
 夜竊ニ此處ニ來リ其門ニ衣食或ハ金錢ヲ投シ去ル者  
 アリ家内ノ者ハ飢餓ニ迫リ己ムヲ得ズ無斷ニ之ヲ使  
 用スルニモ小言モ云ハズ毎日毎夕絶ヘズ其必要品ヲ  
 供給スルアラバ是ハ必ラズ仁人君子ノ陰德ニ出ヅル  
 者ナルヲ推知スルハ外他ニ考案ヲ附スル能ハザルベ

シ然バ其慈悲ト云フ無形物ヲ見ル能ハザルモ又其人  
 ナ見ルニ及バザルモ獨リ有形ノ所行如何ニ因テ其人  
 ノ如何ヲ想見スルヲ得ベキハ論者ト雖モ信用スル道理  
 ニアラズヤ今顧ミテ自然ト動物トノ關係ヲ熟考シ實  
 ニ天帝ハ工夫ヲ凝ラシテ自然ヲ作出シ微頭微尾動物  
 ハ利益ヲ謀ルニ相違ナシト云フ感覺ヲ引起セバ豈之  
 ナ推シテ天帝ハ仁慈ナリ恩禽獸ニ及ンデ其幸福ヲモ  
 進歩スルハ決シテ世間ノ慈善者ノ遠ク及バザル所ナ  
 リトノ結論ヲナサズル可ケンヤ但シ皮相ノ見ヲ以テ  
 之ヲ判斷スレバ此宇宙ニハ種々ノ不都合不自由アリ

テ人類ヲ圍繞シ未ダ遽カニ仁慈ノ創物者アリト云フ  
 可カラザルガ如クナレモ詳細之ヲ點檢スレバ有形ノ  
 不都合ト見セル者其實ハ却テ有形ノ都合ナリ假令バ  
 物ヲ食シテ飽ニ至ルハ是不自由ナレモ飽ズンバ其身  
 体ヲ害セン火ヲ握ルコトノ出來ザルハ自由ヲ失フ如ク  
 ナレモ之ヲ能クスレバ必ズ其身体ヲ燒ニ非ズヤ又人  
 々善ヲナサントスルモ容易ニ之ヲナス能ハズ輒モスレ  
 バ惡道ニ陷ルハ不都合ノ如クナレモ惡アリテ始メテ  
 善アリ人皆自由自在ニ善ヲナシテ惡ヲナス者一人モ  
 無シトスレバ道德上ノ愉快ハ跡ヲ地球上ニ絶タン此

他宇宙ノ組織ハ皆天帝ノ所行タルヲ察知スルヲ得ン  
 而シテ其疑フベク又間然スベキ者ノ如キハ是人智ノ  
 之ヲ見ルノ明ナケレバナリ以上ハ宇宙存在ノ實證ニ  
 因リ天帝ノ仁慈ヲ演繹シタルナリト  
 又曰ク深森羅萬象ノ性質構造ヲ觀察スレバ皆一定不  
 變ノ法則ニ從ツテ榮枯盛衰シ一定不變ノ方法ニ從テ  
 發生運動ス例ヘバ動物ニ種々アレ其構造ハ殆シト  
 同一ナラズヤ況ンヤ彼物理學ニ於テ發見スル所ノ諸  
 法則ノ如キハ萬古ニ通シテ動カザルノミナラズ地球  
 上到ル所トシテ其實行ヲ見ザルノミカ夫ノ往昔ノ人

民ガ全ク地球トハ關係ナシト思惟セル日月星辰ノ如  
 キモ皆地球上ニ行ハル、物理ト同一理ニ從ツテ運動  
 スルヲ見夫ノ太陽系ガ依然トシテ其ノ形体ヲナスハ  
 恰カモ我眼前ノ「ユツプ」ト「机」トガ其分子ノ凝結ヨリ其  
 体裁ヲナスト同一理ニシテ「ユツプ」ト「机」トガ或ハ朽ナ  
 或ハ敗ルガ如ク夫ノ太陽系ト云フ一大物体モ亦榮枯  
 盛衰ヲキ得ハザルヲ知り又諸天体ノ表面ノ組織ノ如  
 キモ我地球ト大同小異ノ法則ニ從ツテ組織アルナラ  
 ント想像セシムルニ至レリ況ンヤ心理學ニ於テ發見  
 スル所ノ諸性質ノ如キハ動物ト動物トノ比較ヲナシ

又動物ト人類トノ比較ヲナシ又人類ト人類トノ比較  
 ナシテ詳細ニ之ヲ吟味スレバ知識ニ道德ニ天性ニ  
 大小ノ差アレバ万動盡ク相類スルノ性質ヲ有セザル  
 ナキヲ見レバ何ゾ一個ノ大原則ノアルアリ同一ノ目  
 的ト工夫トヲ以テ此物理ト心理トヲ規定シ有形無形  
 ノ成存ヲ創造セリト云ハザル可ンヤ若シ多數ノ天神  
 アリテ此宇宙ヲ支配スルト云ハバ何ゾ斯ノ如キ畫一  
 主義ノ實際ニ行ハル、ヲ冀望スルヲ得可ンヤ今ヤ更  
 ニ進ンデ天帝ハ公平嚴格ナル所以ノ實證ヲ舉ゲンニ  
 上ハ文明開化ノ人民ヨリ下ハ蒙昧卑野ノ蠻民ニ至ル

迄一人トシテ良心ヲ有セザル者ナシ而シテ此良心ハ  
 判然トシテ善惡邪正ノ決斷ヲナス己レ之ニ背クノ思  
 想或ハ行爲アレバ自カラ非常ノ譴責ヲナシ之ニ背カ  
 ザレバ千万人ト雖モ行クベキノ勇氣アリ又人ノ不善  
 ナ念ヒ或ハ之ヲナスヲ見レバ之ヲ惡ミ人ノ善ヲナス  
 ナ見レバ之ヲ尊敬セントス然ラバ則チ天帝ガ人民ニ  
 賦與スルニ此善惡ノ心ヲ以テシ此社會ヲシテ道德人  
 ノ社會タラントヲ謀ルニ外ナラザルヲ知ルベシ是ニ  
 因テ之ヲ推スニ天帝ハ善ヲナスヲ好ムノミナラ  
 ズ善ハ之ヲ賞シ惡ハ之ヲ罰スルノ意アルヤ推シテ知

ルベキナリ然ルニ間々悪人盜跖ノ如キ者ハ日々ニ人  
 ノ肝ヲ啖ヒ人ノ財ヲ掠メテ一生ヲ安樂ノ間ニ送ルモ  
 アレバ孔子ノ如ク致々トシテ道ニ志ザス者ノ時ニ逢  
 ハズシテ陳蔡ノ際ニ厄セルモアリテ自然ノ賞罰其宜  
 シキヲ得ザルヲアルハ亦怪ムベキノ至リナリ蓋シ動  
 物有形ノ幸福ニ關シテハ手段ト目的ト常ニ相適合ソ  
 亦間然ス可キナキヲ知ル可ク偶々不適合ノ事アレバ  
 人皆之ヲ怪マズ是不適合アルニアラズ人智少猶未ダ  
 進歩セズシテ之ヲ發見スル能ハザルニ至レリ夫レ斯  
 ノ如ク一方ニ於テハ手段ト目的ト相適合スルニ獨リ

道德上ノ一点ニ就テハ惡人往々天網ヲ免カルハアリ  
 テ天帝ノ目的ニ背違スルノ現象アルヲ見ルモ余輩豈  
 之ヲ天帝ノ無能ニ歸スルヲ得ンヤ早晚賞罰其宜シキ  
 ヲ得ルノ日ニ逢ハン而シテ此日ノ何ノ時ニアル乎ト  
 問ヘバ死後ノ賞罰ニ歸スルノ外アラザル可キナリ斯  
 ク曰ハ論者或ハ云ハントス未來ノ賞罰ヲ證スルニハ  
 先ヅ精神不滅ノ實證ヲ舉示セザル可ラズ有神論者ハ  
 果シテ之ヲ知ルノ明アリヤト答テ曰ク此證據決シテ  
 之レナキニ非ザルナリ第一身体衰頹シテ將ニ老死セ  
 ントスルモ道德上ノ思想ハ確乎タルヲ第二怪我或ハ

病氣等ニテ身体ニ大害ヲ蒙リ殆ンド一命ノ危キ時ニ  
 モ其精神ノ依然トシテ存スルアリ是ニ因テ之ヲ見ル  
 モ精神ト身体トハ其死亡ヲ同フセズ實ニ其關係タル  
 ヤ凡眼ヲ以テ之ヲ見レバ甚ダ密着ノ如クナレモ其實  
 ハ人ト衣服等トノ關係ノ如ク假ニ其衣服ヲ破壊スル  
 モ人ノ精神ニハ影響ナキガ如ク人ノ身体ヲ破壊スル  
 モ其精神ニハ關係ナシ但ダ人類ガ因リテ以テ無形ナ  
 ル精神ノ現存ヲ推察スル唯一ノ器械ナル身体ヲ破壊  
 スレバ復タ其有無ヲ推測スル能ハザルニ至レルノミ  
 其結果ノ死亡シタリトテ其原因ノ死亡ハ豈之ヨリ引

起セル論理上ノ必要ナランヤ且ツ又第三ニ他ノ動物  
 ノ天性ハ皆之ヲ圓滿スベキ物体ノ外界ニ現存スルニ  
 獨リ人類ガ極樂往生ヲ祈ル天性ノミ其満足ヲ見ル能  
 ハザルトハ想像セラレズト云フヲ熟慮シ第四ニ他  
 ノ有形ノ部分ニテハ天帝ノ意志ト其實行トハ必ズヤ  
 相伴スルニ獨リ賞罰ノ一點ハミ此事ナキハ怪訝ハ至  
 リナリ必ズ未來ニ於テ之ヲ行フノ裁判アルベシ然レ  
 モ之ヲナスハ精神不滅ナラザル可ラズトスレバ是又  
 同シク精神ト身体トハ關係ナク身体死シテ精神獨リ  
 存在セザル可ラズト云フ確證ニ充ツベキニ非ズヤ余

輩ハ曰ニ宇宙ニ存在スルノ確實ナル證據ノ一斑ヲ舉示シテ創物主ノ其獨立獨在全智全能ナルヲ其大慈悲至公至正タルヲ主張セント試ミタリ然レモ此實證ハ到底筆ニ口ニ其形狀ヲ言ヒ盡スヲ能ハザレバ反對論者ヲ感服セシムル程ニ此製造品ノ結構ヲ稱揚シテ造人ノ才能ヲ演繹スルヲ得ズ却テ虎ヲ畫テ成ラズ猫ニ類シ其美ヲ贊スル能ハズ反對論者ヲシテ益々有神說ヲ疑ハシムルヲ如何センヤ余輩ハ唯ダ論者ニ向ヒ自カラ萬象ノ結構ヲ見並ビニ其ノ因テ行ハルハ萬般ハ法則ヲ察シ其果シテ全智全能大慈悲ハ創造物主ノ

作出物トナスニ足ルヤ否ヤヲ熟考センヲ希望スルニ過ギズ此ノ如クニシテ始メテ余輩ノ議論ノ空想ニアラズシテ據所アルヲ信用スルニ至ル可キナリト是レ吾人が有神論者ノ最モ勢力アルモノトナス所ナリ吾人今奮ツテ之ヲ駁論シ據ル所ナカラシメント欲ス有神論者が因テ以テ造物主ノ全智全能ヲ保證セントスル所ヲ問ヘバ他ナシ此宇宙間ノ森羅萬象ハ其構造作用盡ク其適合ヲ得テ人類ガ彼器具物品ヲ製造スルノ拙ナルニ比スレバ殆ド天地ノ差異ナリ今夫レ製造品ノ極美極善ナルヲ見レバ實地ニ之ガ製造人ヲ目撃セザルモ推論シテ其工



夫熟練智慧アルヲ察知スルヲ得ルニアラズヤ然ラバ宇宙ト云フ至大至美ノ器物ヲ觀察シ來レバ假令直接ニ其原因ニ遭遇セザルモ必ズヤ其熟練工夫アル製造者アルヲ知ルニ足レリト云フニ過ギズ吾人ハ先ツ此論点ニ向テ是非曲直ノ判断ヲ下サントス

想フニ有神論者ノ説ハ此宇宙ハ動物ノ爲ニ至美至良ノ器械ナリ今日ノ動物ハ此宇宙ニ適當ノ動物ナリ故ニ此動物ノ爲ニ此至美至善ノ宇宙ヲ創造シタル原因ハ必ズヤ全智全能ナラント云フニアルヲ以テ今日ノ世界ハ善良完全ノ世界ナラズ今日ノ動物ハ皆此世界ニ適合シテ幸福ヲ全フ

有神論者  
之持論第  
三陣討破

シ得ル者ニアラズ却テ非常ノ艱難辛苦ノ間ニ生死スト云フヲ證明スレバ忽チ有神論ノ穩當ナラザルヲ知ルニ足ラン請フ有神論者ハ學問上ノ耳目ヲ以テ萬象ノ表裏両面ヲ觀察セヨ必ラズ大ニ覺悟スル所アラントス夫レ生ヲ天地ノ間ニ享ル者ハ幾分カ世界ニ適合スル所アラントスト雖モ大ニ適スル者モアリ少シク適スル者モアリ例ヘバ茲ニ一動物アリ若シ其棲息スル所ノ氣候ハ寒ニ過ギ或ハ暖ニ過ギテ其健康ニ大害ヲ來スモ家屋ヲ建テ衣服ヲ製シ以テ此寒暖ヲ防禦スルノ手段方法ヲ有セザル者ハ忽チ滅亡ニ歸スルヲラン又腕力ナリ智力ナリニ於テモ其敵ノ襲撃

ヲ防禦スルニ足ラザル者モ亦生ヲ全フスル能ハザラント  
 ス唯ダ其敵ヲ避ルニ適スル者ノミ此世界ニ生長スルヲ得  
 ルナリ夫レ斯ノ如ク少シク適スル者ハ死シテ跡ナク生存  
 スル者ハ皆大ニ此世界ニ適スル者ナルガ故ニ若シ眼ヲ今  
 日ノ生物ノ上ニ注ギ去ルトキハ必ラズ多少微妙ナル適合  
 アリテ轉々人ナシテ是ハ一個ノ全智全能者ガ動物ノ利益  
 ヲ謀リテ然ラシメタルナラン然ラズンバ何ゾ此宇宙ガ此  
 動物ニ適スル斯ノ如クナルヲ得ンヤ然ラズンバ此宇宙ト  
 云フ一大器械ノ構造ハ如何ニシテ徹頭徹尾生物ノ利益ヲ  
 進ムル斯ノ如クナルヲ得ンヤト思惟セシムルニ至ラント

ス然レモ顧ミテ議論ノ背面ヨリ觀察ヲ下セバ必ズヤ此思  
 想ノ妄ナルヲ發明スルヲ得ベキナリ夫ノ生存ノ競争ト云  
 ヒ適者ノ生存ト云ヒ優勝劣敗ト云ヒ弱肉強食ト云ヒ皆能  
 ク今日宇宙ノ現象ヲ抽キ出タシタルノ語ナリト稱スベシ  
 今日ノ宇宙ハ泰平無事動物其處ノ宜シキ得テ安樂ニ其生  
 涯ヲ送ル所ナリト臆測スルハ誤解ノ最モ甚ダシキ者ナリ  
 生ヲ天地ノ間ニ享ル者ハ盡ク適者ナラザルノミカ氣候風  
 土ニ適セズシテ早世スル者ノ數ハ遙カニ氣候風土ニ適シ  
 テ長命スル者ノ數ヨリモ夥多ナリト云フ事實ヲ指示セバ  
 論者ト雖モ前説ヲ固守スル能ハザルベシ況ヤ一個ノ生物

無量日  
有神論者  
之説却爲  
反對之証

ナシテ其生ヲ全フセシメントスレバ幾萬ノ生物ヲ吞養ス  
ルノ必要アリ則チ一個ノ適合スル者ヲ出サントスレバ必  
ズヤ幾萬ノ不適合ノ者ヲ殺シテ之ガ食欲ヲ充サズルヲ得  
ザルハ今日自然ノ法則ニシテ斷然タル決行ヲナシ今日ノ  
宇宙ヲ改革スル能ハザル以上ハ幾億万年ノ後ヲ期スルモ  
万動各々其處ヲ得ルヲ冀望ス可カラザル所以ヲ覺悟セシ  
メバ論者ト雖モ此世界ハ万動其幸福ヲ全フスル樂園ニア  
ラズシテ却テ悲壯慘憺タル一大修羅場ナリト云フ事實ヲ  
發見シ降伏ヲ我軍門ニ容ル、ニ至ラン因リテ是ヨリ適者  
ノ少クシテ不適者ノ之ニ幾倍スル所以ヲ明ニ證明シテ論

者ノ迷ヲ開掃セント欲スルナリ

試ミニ想像セヨ上ハ人類ヨリ鳥獸魚鼈昆蟲草木ニ至ル迄  
其同類蕃殖極メテ迅速ニシテ且ツ夥多ナレバ若シ之ヲシ  
テ充分ニ其蕃殖ヲ逞フセシメ又其子孫ヲシテ此世界ニ適  
合セシメ其生ヲ保全セシメバ茫茫タル大洋モ魚鼈之ニ充  
滿シテ舟ノ通行スベキ餘地モナク漠々タル大陸モ人畜昆  
蟲草木之ニ充滿シテ雖チ立ツルハ餘地ヲモ殘サズルニ至  
ルベキナリ是論者ノ許ス所ナルベシ然ルニ實際ニ就テ之  
ヲ見レバ年々歳々其蕃殖ヲ逞フス動物ハ極メテ少ナク大  
概ハ同一ノ數ヲ有シ若クハ減少ノ傾向アリ獨リ人類ニ至

リテ愈々蕃殖スルガ如シト雖是レ又同シク充分ニ蕃殖  
 ナナス能ハズ十年二十年或ハ四十年五十年ヲ經過スルモ  
 其人口ヲ二倍スル能ハザル者大抵皆然ルニアラズヤ而シ  
 テ其理由如何ヲ問ヘバ是決シテ動物其蕃殖ノ欲ヲ抑制シ  
 テ敢テ猥リニ其子孫ヲ生出セザルニハ非ザルナリ夫ノ人  
 類ノ如キハ智慮遙カニ群獸ノ上ニ出ヅルガ故ニ時ノ事情  
 ニ因テハ此情慾ヲ抑ヘ以テ前後ノ計ヲナスコトアリ假令ハ  
 我レ若シ子ヲ舉ルモ之ヲ養育シテ適當ノ養育保護ヲ與フ  
 ルニ足ルノ資力ナキヲ慮リ或ハ假令子ヲ舉ルモ之ヲ養育  
 スル資力アレハ爲ニ大ニ費用ヲ要スルヲ以テ豫テ定メタ

ル目的ヲ達スル能ハザルニ至ラント種々ノ遠慮ヲナシ以  
 テ婚姻ヲ延期シ以テ繁殖ヲ抑制スル者ナキニアラザレハ  
 是又百中ノ二三ニ過ギズ彼酒々タル者皆前後ヲ顧ミズシ  
 テ妻ヲ娶リ妾ヲ養ヒ以テ人々ノ蕃殖ヲ來タザルハナシ  
 況ンヤ下等ノ動物ニ於テハ皆其情慾ヲ逞シクシ從テ子孫  
 ナ生出セザル者ハアラザルナリ然ルニ猶動物ノ増殖ヲ見  
 ザルハ抑モ何ニ因ル乎他ナシ是レ生物ガ多ク産出セザル  
 ニアラズ多ク死亡スルニ原因スルナリ是「マルサス」ノ所謂  
 豫防制ナル者ニ起因セズシテ其所謂實制ナル者ニ由來ス  
 ルナリト云ハザル可ラザルナリ豫防制トハ生物ガ其情ヲ

## 有神論第

## 四陣破

抑ヘテ子ヲ生マズ爲ニ同類ノ蕃殖ヲ妨害スルヲ云ヒ實制トハ生物ノ種々ノ原因ヨリ早世シテ自然同類ノ蕃殖ヲ防抑スルヲ云フナリ例ヘバ人妻ヲ娶ラザルハ豫防制ニシテ人ノ戰爭疾病飢餓等ニ因リテ天年ヲ終ユル能ハザルハ實制ナリ此故ニ生物ノ思フ様ニ蕃殖セザルハ豫防制ニ依ラズシテ實制ニ因ルト云フハ取リモ直サズ生物ノ充分ニ蕃殖セザル多ク生マザル爲ニハアラズ多ク生ムモ滅亡ニ歸スルガ爲ナリ然リ而シテ何故ニ此ノ如ク早世スルヲノ甚シキヤト問ヘバ他ナシ曰ク多數動物ガ其世界ノ寒暑風雨疾病饑渴戰爭殘害等ニ適合セザルガ爲ナリト蓋シ局外諸

君ガ公平無私ナル判断ヲ下サザルモ生物ノ多ク蕃殖セザルハ多ク出來ザルニアラズ出來タル者ノ溢々トシテ死去スルナリト云フ其死去スルハ有情無情ノ讎敵ニ逢フテ之ヲ處スルノ手段ナキニ出ルナリト云フ又此ノ如ク死去スルノ多キハ世界ガ此動物ニ適合セザルニ原因スルナレバ今日ノ宇宙ヲ稱賛シテ動物ノ爲ニ完美ヲ盡シタルノ器關ナリト云フ能ハザルノ証據トナスコトハ決シテ妄言ニアラザルヲ發見スルナルベシ否有神論者ト雖モ虚心平氣ニ之ヲ熟考シタランニハ必ズヤ吾人ト同一ノ結論ニ歸着スルヲ知ルナリ論者尙ホ合點スル能ハザレバ吾人ハ百

千ノ例ヲ舉示シ以テ其一斑ヲ以テ全豹ヲ伺知セシメント  
 ハ甚ダ容易ノ業ナレヒ吾人ハ有神論者ノ聰明ナル必ラズ  
 ヤ此理ヲ感覺スルヲ得ント信ズルガ故ニ敢テ其徒勞ヲナ  
 シテ讀者諸君ノ退屈ヲ招クノ危険ヲ冒犯セザルナリ  
 然レヒ是吾人ノ想像ニ屬スレバ有神論者ノ万一此見易キ  
 事柄ニ就テモ異議アルヤ未ダ断定スベカラズ此故ニ讀者  
 ノ倦怠ヲ來スヲ顧ミズ更ニ一例ヲ舉テ此ノ宇宙ノ極メテ  
 不完全ナル所以ヲ明示セン蓋シ今日ノ天理ニ於テ動物社  
 會ハ一部分ガ生存ノ幸福ヲ享クルニハ他ノ動物ニ疾病死  
 亡ハ不幸ヲ來ス必要アリテ決シテ万物トモニ生存スル能

ハザルナリ試ミニ想ヘ肉食ノ動物ヲシテ其生ヲ全フセシ  
 メントスレバ菜色ノ動物ヲシテ非業ノ横死ヲ遂ゲシメザ  
 ルヲ得ザルニ非ズヤ例ヘハ鷹若クハ鷲ヲシテ其生ヲ保タ  
 シメントスレバ幾多ノ小鳥ノ生命ヲ絶ツトヲ要ス而シテ此  
 小鳥ヲ生存セシメントスレバ無數ノ昆蟲殺サヅルヲ得ザ  
 ルナリ故ニ昆蟲ヲシテ悠々ノ生涯ヲ送ラシムレバ小鳥ハ  
 餓死セントス小鳥ヲ助ケントスレバ小蟲ヲ殺サヅルヲ得  
 ザルナリ又鷹ヲ助クルニハ小禽ヲ殺シ小禽ヲ助クレバ大  
 禽ヲ餓死スルニ至ラン但食類ヲ異ニスル者ノミ斯ノ如ク  
 兩立スル能ハザルニ非ズ同食ノ者ト雖ヒ亦互ニ相殺セザ

ルヲ得ズ假令之ヲ殺サヅルモ間接ノ戦争ヲ免カレザルニ  
 アラズヤ例ヘバ強犬ハ弱犬ト其食ヲ争ヒ弱犬若シ生ヲ逞  
 フスレバ強犬ハ餓死スベク強犬能ク弱犬ヲ壓倒シテ始メ  
 テ其生存スルヲ得ルナリ強者倒レズンバ弱者倒レ弱者  
 倒レズンバ強者倒レントス又蝗虫ヲシテ恣マ、ニ野菜ヲ  
 食ハシメバ人類其他ノ動物ハ餓死スルニ至ラン斯ノ如ク  
 其種類ノ異ナルト否ラザルトニ拘ハラズ充分ノ衣食住ヲ  
 得ントスルノ必要ニ驅使セラレテ互ニ相戦争シ互ニ相吞  
 噬スルユトハ今日ノ天理ナルヲ如何センヤ若シ之ヲ改  
 革シ一方ニハ強食弱肉ノ天理ノ蕃殖スル割合ニ食住ヲ供

給スルカ或ハ動物ノ蕃殖ヲ制限シテ充分ノ食住ヲ得ル様  
 注意シテ食物ノ競争ヲ廢スルカ斷然タル決行ヲナサザル  
 以上ハ到底此慘憺タル修羅場ヲ轉ジテ安閑タル樂園トナ  
 ストヲ得ズ然ラバ則チ此宇宙ノ不完全ニシテ到底動物ニ  
 適合スルノ一大器械タラザルハ愈々以テ疑惑ヲ容ル可カ  
 ラザルナリ  
 事實既ニ斯ノ如シ然ルニ有神論者ハ現象ノ兩面ヲ見ル能  
 ハズ其表面ヲ見テ裏面ヲ忘却スルハ蓋シ輕卒ノ舉動ト云  
 フ可キノミ獨リ或ル動物ガ充分ノ食料ヲ得ルヲ見レバ是  
 ノ天帝ガ外界ニ應ジテ動物ヲ創造シタルナラント云フ而

シテ其裏面ニハ之ヲ信用スルハ動物ガ早逝シテ痕ナキヲ知ラザルナリ各種ノ土地氣候風俗ニ適合スル者ヲ見レバ是天帝ガ動物ノ利益ヲ謀リテ動物ヲ配布シ其處置ノ宜ヲ得セシメシナリト云フ而シテ其裏面ニハ之ノ風土氣候等ニ適合セズシテ非常ノ辛苦ニ陥リ遂ニ死亡ヲ致ス如キ慘狀アルヲ見ザルナリ草ヲ食シテ身ノ疾病ヲ療治スル動物ヲ見レバ是天帝ガ動物ノ爲ニ此天性ヲ賦與シタルナラント云フ而シテ其裏面ニハ藥草ヲ撰食シ能ハザル動物ガ微恙ニ罹リテ直ニ其死亡スルノ慘狀アルヲ見ザルナリ今日ノ植物ト今日ノ動物トハ化學上ニ一定ノ割ヲ有シ植物

ノ酸素ヲ吐クハ動物ガ其生命ヲ保存スル所以ナルヲ見レバ是天帝ガ植物ノ酸素ヲ吐ク分量ニ應ジテ動物ヲ生出シタルナラント云フ而シテ其裏面ニハ充分ノ酸素ヲ得ル能ハズシテ性命ヲ墜シ遂ニ今日ノ平均ヲナスニ至ルヲ見ザルナリ東西ニ移住シテ其身性質ニ適合スル風土氣候等ヲ求ムル動物アルヲ見レバ是天帝ガ動物ニ此天性ヲ賦與シテ其幸福ヲ謀リタルナリト云フ而シテ其裏面ニハ移住ヲナスノ天性ヲクシテ死亡シタル動物アルヲ見ザルナリ牛ニ角アリ馬ニ蹄アリ鷹ニ爪アリ獅子ニ牙アリ総テ鳥獸蟲魚ニ至ル迄羽毛アリ又ハ鱗アルヲ見レバ是天帝ガ動物ニ



天然ノ武器ヲ賦與シテ相互ノ吞噬搏奪ヲ防禦セシムルナ  
 リト云フ而シテ其裏面ニハ此武器アルニモ拘ハラズ肉食  
 動物ハ日々菜食動物ヲ喰ヒ殺シ同食ノ動物中ニ於テモ互  
 ニ相争鬪シテ食料ヲ得ントシ動物到底並立セザル慘憺タ  
 ル狀況アルヲ見ザルナラズ斯ノ如ク生テ形アル動物ヲ見ル  
 ノ肉眼アレハ死シテ痕跡ヲ留ザル者ヲ見ルノ心眼ナキガ  
 故ニ遂ニ今日ノ天地ヲ觀察シテ完全ノ天地トナスニ至レ  
 ルナラン然リト雖ニ吾人が上來論シ去リ論シ來ル所ヲ玩  
 味セバ必ズヤ此宇宙ハ實際動物ノ爲ニハ不完全ヲ極メタ  
 ル器械ナルヲ覺悟スルニ至ルベキナリ

無量日  
 有神論者  
 之注意

果シテ然ラバ有神論者ガ因テ以テ天帝ノ全智全能ヲ證セ  
 シトシタル宇宙ト云フ一大器械ヲ觀察スルモ之ヲ推シテ  
 其原因ノ全智全能ナルヲ演繹ス可カラザルノミカ若シ自  
 然ノ目的ヲ以テ動物ノ幸福ヲラシメバ此世界ハ極メテ不  
 完全ナルモノヲ以テ之カ製造者ハ却テ全智全能ニ非ズト  
 云フ反對ノ證據トナルニアラズヤ是ニ於テカ有神論者ガ  
 天帝ニ第一ノ性質アルヲ證セントシタル勤勞モ其報酬ナ  
 ク却テ自業自得ノ不幸ニ遭遇セリト云ハザル可カラズ請  
 フ是ヨリ天帝ニ第二ノ性質乃チ仁慈ノ性質アリト云フ證  
 據ハ果シテ價值アルヤ否ヤヲ吟味セント欲スルナリ

夫ノ有神論者ガ其心眼濛々トシテ議論ノ両面ヲ見ルノ明  
 ナク獨リ其一面ノミヲ觀察シテ以テ此宇宙ノ完全無欠ヲ  
 唱導スルハ極メテ憫笑スベキノ至リナリ此事ニ就テハ吾  
 人ハ已ニ之ヲ攻撃シテ又餘地ナキヲ信ズルナリ因テ是ヨ  
 リ論者ガ宇宙ノ構造働作ヲ舉示シテ天帝ノ仁慈ヲ証セン  
 トスルノ妄ナルヲ論明スルノ時機ニ到着セリ然レモ論者  
 若シ吾人ガ以上説明スル所ヲ玩味スルノ感覺アラバ吾人  
 ハ信ズ論者ガ論鋒ヲ接セズシテ其兇ヲ脱キ我論門ニ降參  
 スルナラント故ニ茲ニハ駁論ヲ要セズ唯論敵ノ降旗ヲ翻  
 スヲ俟テバ則チ足ルナリ其理由ハ如何ト云フニ今日ノ世

弄花曰  
 豫言又遠  
 乎來

界ガ若シ論者ノ臆測スルガ如ク構造働作其宜キヲ得万物  
 其堵ニ安ンシ天年ヲ全フスル悠々タル樂園ナラバ是蓋シ  
 仁慈ナル活物ガ人畜昆蟲ノ利益幸福ヲ謀リテ作出シタル  
 ナラン造物者ハ必ラズヤ大慈大悲ノ靈徳アラシト云フ一  
 種ノ妄想ヲ引起スルナラン吾人ノ証明シタルガ如ク此宇  
 宙ハ動物ノ爲ニ甚ダ不完全ナル修羅場ニシテ有形無形ノ  
 讎敵ハ常ニ其周圍ヲ遶リテ安寧健康ヲ妨害スルトセバ如  
 何ナル人ト雖モ之ヲ見テ至美至善ノ宇宙トハナサザルベ  
 シ之ガ製造者ヲシテ大慈大悲ノ活神ナリトハナサザルベ  
 シ否ナ過激ノ論者ヲシテ此議論ヲ評サシメバ此宇宙ハ實

有神論第六陣破

ニ蕭殺慘愴タル戰場ナリ此ノ如キノ宇宙ヲ創造シ人畜ヲ其間ニ置キテ七顛八倒ノ苦艱ヲナサシムル者ハ極メテ殘忍酷薄ナルニ相違ナシトノ暴言ヲ吐露スルニ至ラン吾人ハ實ニ之ヲ停止スルノ辭ナキニ苦ムナリ想フニ有神論者ガ執拗ニモ吾人ノ注告ニ從ハズ或ハ眼ヲ掩フテ天地ノ現狀ヲ見ザルカ又ハ愚ニモ之ヲ見ルノ明ナクンバ則チ已ム苟モ然ラズ眼ヲ放テ此現狀ヲ見ルヲ得バ必ラズヤ千年ノ非ヲ轉迷開悟シテ「嗚呼我誤テリ」此ノ如キノ修羅場ヲ見テ極樂淨土トナシ此ノ如キ地獄ヲ創造シテ動物ヲ其間ニ置キタルヲ誤解シテ大慈大悲トナシ朝夕其恩德ヲ慕

謝シ毫モ其無慈悲ナルヲ開悟セザリシハ返ヘスノ極度ナリト云ヒ慚愧後悔ノ外ナカラント推察スルナリ之ヲ要スルニ此世界ガ動物ノ利益ヲ謀リテ作出セラレタルノ形跡アレバユソ之ガ作出者ハ大悲大慈ナラント推測スルヲ得ベケン若シ然ラズ此世界ガ動物ノ爲ニ甚ダ不心切不利益ナラバ之ガ創造者ハ大悲大慈ナリト云フ能ハザルナリ而シテ今顧ミテ自己ノ現狀如何ヲ問ヘバ論者ノ唱導スル所ト正ニ反對シテ實ニ動物ノ爲ニハ殘酷ナル地獄ナリト云フハ吾人已ニ明瞭ニ之ヲ證明シ論者モ亦己ニ之ヲ覺悟シタル可ケンバ吾人ノ今更喋々スルヲ俟ズシテ

論者ノ目的ノ其非ヲ悟リ天帝ハ仁慈ナリト云フ前説ヲ取  
消スニ至ラシカ實ニ此世界ノ創造者ヲ目シテ仁慈ナリト  
云フハ吾人ハ實ニ其意ノ在所ヲ知ルニ苦ムナリ豈ニ奇怪  
千万ナラズヤ

斯ク曰バ論者或ハ遁辭ヲ設ケテ云ハントス此世界ハ完全  
ナル特ニ人類ノ爲ニ完全ナリ此製造人ノ仁慈ナルハ特ニ  
人類ノ爲ニ仁慈ナリ蓋シ人類ハ才德遙カニ一般ノ動物ニ  
優リ互ニ共同戮力シテ國家ヲ起シ社會ヲ建テ以テ自然ヲ  
支配シ其權力當ル可カラズ有害ノ禽獸ハ之ヲ追ヒ擾フテ  
其痕跡ヲ絶テ有益ノ禽獸ハ之ヲ其周圍ニ呼集シテ之ニ勞

役ヲ命ジ或ハ之ヲ喰殺シ寸毫モ假借スル所ナシ實ニ他ノ  
動物ノ幸福ヲ見レバ甚ダ不完全ナレモ更ニ人類ノ地位ニ  
立テ之ヲ觀察スレバ此世界ハ徹頭徹尾皆其幸福ヲ進メザ  
ルナク之カ創造者ハ實ニ此人類ニ對シテ大悲大慈ナルヤ  
疑フベカラズ然ラバ動物ノ幸福上ヨリ論ズレバ此世界ハ  
不完全ニシテ天帝ハ無慈悲ナレモ獨リ人類ノ地位ヨリ觀  
察スレバ此世界ハ至美至善ナリ此天帝ハ大慈悲ナリト云  
フモ決シテ困却ナキナリ余輩ノ天帝ヲ慈悲ナリト云ヒタ  
ルハ右ノ意味ニテ用ヒタルナリ動物ノ爲メ慈悲ナリト云  
ヒタルハ一時ノ方便ニシテ言語ニ勢カヲ添フル爲ノミ豈

余輩ノ借用スル所ナラシヤト此言果シテ是ナルカ吾人ハ  
尙ホ容易ニ然リト斷言スル能ハザルナリ

今論者ノ言ニ從ヒ動物ノ幸福上ヨリ觀察セズ唯ダ人類ハ  
安寧上ヨリ論斷スルモ尙ホ此宇宙ノ不完全ニシテ此創造  
者ノ慈仁ニアラズンバ不智ナル所以ヲ証明セン論者ノ言

ノ如ク動物ノ中ニ就テ最モ幸福ヲ得ル者ハ人類ナリ人類

著者之苦心

ハ他ノ動物ヨリモ幸福ヲ得ルハ勿論ナリ然レモ絶對ニ之  
ヲ思慮スルトキハ幾億々年ノ後ニ至ルモ完全無欠ノ幸福  
ヲ得ルノ見込ミナシ今其一例ヲ舉ゲンニ人口増加ノ速力  
ハ食物増加ノ速力ヨリモ大ナリトハ「マルサス」氏ノ夙ニ唱

導スル所ニシテ復タ争フベカラザル眞理ニアラズヤ而シ

テ其實際ニ於テ然ルヲ得ズ極テ遅々タル蕃殖ヲナス所以

ハ幾分カ豫防制アリテ之ガ原因ヲナスナル可シト雖モ彼

ノ猛烈殘酷ナル天災地妖疾病戰爭飢餓凍餒等ノ爲ニ人類

ガ其天年ヲ終ユル能ハザルニ原因セズンバアラザルナリ

是千古ノ歴史ト今日ノ事實トニ徴シテ亦疑フベカラザル

ニアラズヤ果シテ然ラバ此宇宙ハ不完全ニシテ到底萬能

ノ天帝ガ人類ノ利益幸福ヲ謀リテ作出シタル者ナリト推

測ス可カラザルナリ

論者ノ或ハ尙合點セザラシクテ恐ル、ガ故ニ吾人ハ更ニ

他ノ方面ヨリ一擧セント欲スルナリ文明愈々行進スレバ  
 人類ノ幸福増進ス其分量ヲ増加スルハ蓋シ自然ノ實則ナ  
 リ東洋ノ人民文化シテ泰西人ノ地位ニ達スレバ其幸福モ  
 亦從テ増加スベシ又今日ノ泰西人が更ニ一大進歩ヲナシ  
 テ今日ニ百倍或ハ千倍スル開化ヲナスニ至レバ其幸福モ  
 亦百倍或ハ千倍セザルヲ得ズ是レ他ナシ人類ノ開化愈ヨ  
 隆盛ナレバ禽獸草木山川金石其他百般ノ自然物ヲ利用シ  
 テ自己ノ幸福ヲ増加スルノ力ニ富メルヲ以テナリ故ニ今  
 日ノ日本人ガ野蠻人ノ開化セズ道路橋梁飲食家屋皆其宜  
 適ヲ得ズ又疾病アレハ適當ナル醫者ナク戰爭アレドモ之

ヲ治ムルノ政治家ナク實ニ不幸ナル慘狀ヲ現出スルヲ見  
 レバ自カラ憐憫ノ情ヲ催スガ如ク西洋人ヨリ東洋人ヲ見  
 レバ同一ノ感ヲ引起スルヲラシテ百千年ノ泰西人が  
 今日ノ西洋ノ開化ヲ回顧スレバ又同一ノ感ヲ起サン其文  
 化開ケズシテ其人民ノ不幸ノ生涯ヲナスヲ憐マズンバ則  
 チ笑ハントス論者若シ附會シテ歐洲今日ノ文明正ニ絶頂  
 ニアリテ一步ヲモ進ムル能ハズト云ハゞ詮方ナシ若シ公  
 平ナル判斷ヲ以テ此開化ハ未ダ充分ナラズ却テ進歩ノ途  
 上ニアリ何ノ日カ其絶頂ニ達スルカナ豫期スベカラズト  
 スレバ今日人類ノ幸福モ極メテ不完全ニシテ人類ノ想像

力ニテハ到底其完全ニ達スルノ日ヲ豫期ス可カラザルナ  
 リ果シテ然ラバ今日ノ半開未開ノ人類ハ勿論最開化ノ人  
 民ト雖モ未ダ充分ノ開化ヲササルガ故ニ其幸福モ未ダ  
 決シテ充分ナラズ此地獄ヲ一變シテ樂園トナスハ千萬年  
 ナ經過スルヲ後ト雖モ其必然ヲ保證スル能ハザルニアラ  
 ズヤ人類ハ千萬年ノ後ニハ到底充分ノ幸福ヲ得ルニ至ル  
 ベキヤ否ヤハ暫ク措テ論セズ假令之ヲ然リトナスモ之ニ  
 達スルマデ經過スル千萬年ノ間人民ヲシテ殘酷ニモ寒暑  
 ニ風雨ニ戦争ニ疾病ニ飢餓ニ凍餒ニ遭遇セシムルハ決シ  
 テ全智全能ト大悲大慈トヲ兼テタル造物主ノ所爲トナス

有神論  
 第七陣破

可カラザルナリ若シ果シテ大慈悲ナリ或ハ全智全能ナラ  
 バ此不完全ナル世界ヲ作出シタルハ其力完全ノ天地ヲ作  
 ルヲ能ハザリシナラン若シ能ク之ヲ作出スルヲ得テ然カ  
 モ之ヲササルハ以テ不仁不智ノ証トナス可キナリ此ノ  
 如キノ世界ヲ創造スル者ニ於テハ二者決シテ兩立セズ彼  
 ノ果シテ此二者ヲ兼有スルトナサンカ道理ニ於テ此ノ如  
 キ世界ヲ創造スベキ理由ナク直ニ完全ノ天地ヲ作出シタ  
 ルニ相違ナカルベキナリ  
 吾人ハ今更ニ讀者ノ倦怠ヲ來スノ危險ヲ冒犯シ更ラニ一  
 論ヲナシテ此説ノ非ヲ發カン吾人以上論明スル如ク今日

ノ天理ニ於テ動物社會ノ一部分ガ生存ノ幸福ヲ享クルニ  
 ハ他ノ動物ニ疾疫飢餓凍餒ノ死亡ヲ來スノ必要アリテ決  
 シテ動物共ニ生存ノ幸福ヲ全フスル能ハザルナリト此事  
 ダルヤ獨リ一般ノ動物社會ニノミ行ハル眞理ニアラズ萬  
 物ノ靈長ナリトノ評アル人類社會ニノミ就テ論ズルモ亦  
 此事アルヲ免カレザルナリ尤モ人類ハ如何ニカアリ又智  
 アリト雖モ其同類ヲ喰殺シテ其食慾ヲ圓滿スルコトハナ  
 サゞルガ故ニ此一點ニ至リテハ先ヅ安心安堵シテ貧弱ノ  
 朝鮮人ガ富强ナル泰西人ニ遭遇スルモ直接ニ喰殺サルハ  
 ノ恐怖ヲ抱有シテ戰々競々スルノ必要ナケレバ鼠ノ猫ニ

逢ヒ雀ノ鷹ニ逢フタルト同一ノ論ニアラズシテ弱肉強食  
 主義ハ動物ノ間ニ行ハレテ人類ト人類トノ間ニハ行ナハ  
 レザルナリ然レモ衣食住等ノ不足ヨリシテ互ニ相争闘シ  
 強者ハ勝テ弱者ノ邦國ヲ奪ヒ之ヲ險惡ナル風土ニ進ミ  
 退ケテ自然ニ其幸福ヲ減却シ甚ハダシキハ其人種ヲシテ  
 痕跡ヲ此世界ニ絶タシムルガ如キハ是事實ノ争フ可カラ  
 ザル者ニアラズヤ今日泰西諸國ニ於テ盛ンニ殖民政畧ヲ  
 採用シ苟モ乗ズベキノ時機アラバ他ノ邦土ヲ横領セント  
 シ其土人ノ頭上ニ如何ナル不幸ヲ蒙ムラシムルモ顧慮セ  
 ザルハ抑モ何ニ因ルカ彼衣食住ノ不足ヲ以テ之ガ最大原



因トナサヰルヲ得ズ泰西人ハ一般ノ動物ト同シク無限ノ蕃殖力ヲ有スルガ故ニ須臾ノ間ニ其邦土ノ人口ヲ倍蕪シ生計困迫シテ亦其適宜ノ衣食住ヲモ得ル能ハザルニ至ル是ニ於テカ其有餘ノ人民ヲ養フノ地ヲ作ルガ爲ニ止ムヲ得ズ人ノ土地ヲ畧取シ人ノ困難饑餓ヲ來スニ外ナラザルナリ猶ホ強犬自己ノ饑餓ノ情止ヲ得ズ弱犬ノ口ニ啣ヘタル嚙肉ヲ奪ヒ取り以テ弱犬ノ饑餓ヲ來タシ小鳥ガ饑餓ノ情止ムヲ得ズ八方ニ飛ビ廻リテ小蟲ヲ探索シ之ヲ食シ其口腹ヲ肥シ以テ小蟲ノ死亡ヲ致スガ如シ又人類ガ狼虎ヲ千里ノ外ニ追ヒ退ケテ獨リ良好ノ風土氣候ヲ占有シ或ハ

禽獸魚鼈ヲ漁獵シテ以テ自己ノ衣食住ヲ獲ルカ如ク皆止ムヲ得ザルノ必要ヨリ生出スルモノニシテ決シテ無益ノ殺生ヲナスニハアラザルナリ若シ蟲ヲシテ生存セシメシトセバ勢ヒ小鳥ヲ餓死セシメサルベカラズ又小鳥ヲシテ生ヲ逞フセシメントセバ大禽ヲシテ勢ヒ餓死セシメザルベカラズ故ニ大禽ヲシテ其生命ヲ保存セシメントセバ必ラズヤ小鳥ノ性命ヲ絶テ其食慾ヲ充サヰル可カラズ之ト同シク若シ泰西人ヲシテ其子孫ヲ蕃殖セシメ之ニ適當ナル邦土ヲ供給スレバ勢ヒ東洋人ヲシテ其幸福安全ヲ保有セシムル能ハズ若シ泰西ノ人が充分ニ仁慈ノ心意ヲ擴張

シ是ヨリハ決シテ他人ノ土地ヲ掠奪スル勿シ他人ヲシテ  
 貧困飢餓凍餒ニ瀕臨セシムルヲ勿カラシム今後ハ他人ト食  
 ヲ争フヲ勿ラント云フ決心ヲナサバ東洋人ハ愈ヨ其子孫  
 ヲ蕃殖シテ地球ヲ横領シ泰西人ハ飢餓凍餒ニ沈淪シテ  
 非常不測ノ不幸ヲ蒙ルニ至ラン夫レ斯ノ如ク我ヲ助ケ  
 ント欲スレバ彼ヲ害シ我ガ衣食住ヲ充分ニセント欲スレ  
 バ必ラズ他人ヲシテ其衣食住ヲ不充分ナラシムルハ是今  
 日ノ天理ニシテ到底彼我ノ利益ハ兩立セズトスレバ其間  
 ニ向テ生存競争ノ慘狀ナカラシメントスルモ得ベカラズ  
 例ヒ此事ナシトスルモ互ニ顧慮警戒シテ一日モ枕ヲ高フ

生存競争  
 爲社會之  
 定則爲今  
 日之天理  
 豈可動哉

シテ安眠スル能ハザルベシ實ニ人類ノ一部分ニ於テ充分  
 ノ幸福ヲ享ケシメントスレバ勢ヒ他人ヲシテ非常ノ大不  
 幸ヲ蒙ムラシムルノ必要アルニ於テハ何ゾ今日ノ天地ヲ  
 目シテ人類ノ爲ニモ完全無欠ナリト云フ可ケンヤ何ゾ之  
 ガ創造者ヲ推測シテ人類ノ爲ニモ大慈大悲ナリト云フ可  
 ケンヤ一人ノ利益ヲ謀レバ自カラ萬人ノ利益トナリ東洋  
 人ノ幸福ヲ進ムレバ間接泰西人ノ幸福トナリ彼我ノ利害  
 相一致シテ始メテ人類ハ充分ノ幸福ヲ得ベキナリ今日ノ  
 如ク万國ノ際一國ノ内大ニ其利害休戚ヲ異ニスル場合ア  
 ル以上ハ千萬年ノ星霜ヲ經過スルモ到底相共ニ幸福ヲ全

フス可カラザルナリ極端論者ガ自然ノ目的タル人類ヲシテ互ニ相殘害シ互ニ相爭鬪セシメテ其慘狀ヲ見ルヲ愉快トスルモノナラント云フニ至ルモ之ヲ閉口セシムルノ辭ナキニ苦ムナリ是豈ニ大悲大慈ト全智全能トヲ兼有スル者ノ所爲トナス可ケンヤ

是ニ因テ之ヲ見レバ耶蘇教徒ノ所謂天帝ナル者ハ獨リ動物一般ノ爲メニ無慈悲ナルノミナラズ特ニ人類一般ノ幸福上ヨリモ亦慈悲アリト云フベカラズ讀テ此ニ來ラバ反對論者ト雖モ之ニ向ツテ答辨スルノ言語ヲ失ヒタルナラント信ズルナリ是ヨリ一步ヲ進メ彼ノ有神論者ガ道理上

ヨリ論講シテ天帝ノ至正至公ナルヲ未來ニ賞罰アルヲ證セント試ミタル勤勞ハ果シテ價值アリヤ否ヤヲ吟味セント欲スルナリ

有神論者ガ此一點ニ就テ有スル議論ハ極メテ薄弱ニシテ吾人ガ前ニ之ガ代言ナスニ於テモ其勢力ナキニ困却セリ其唱導スル所ヲ聞ケバ曰ク上ハ文明開化ノ歐洲人ヨリ下ハ濛昧野卑ナル蠻民ニ至ル迄其体幾億ナルヲ知ラズト雖モ其中一人トシテ良心ナル者ヲ持有セザルハナシ而シテ此良心ヲ持有スル人類ハ自分ニモセヨ他人ニモセヨ不善非道ノ念ヲ生シ或ハ不義不長ノ所行アラバ喜バズシテ之

ヲ罰セント思ヒ善良ノ所行所思ヲナスモノハ之ヲ喜ンデ  
 賞センコトヲ思ヒ想フニ此良心アリテ始メテ人類ハ共同一  
 致シテ家ヲ起シ社會ヲ結ビ遙カニ萬物ノ上ニ立ナテ其專  
 横ヲ極ムルヲ得レバ是豈天帝ガ人類ノ幸福ヲ謀リテ之ニ  
 此原性ヲ與ヘテ罪惡ヲ防遏シ永ク此社會ヲシテ道德社會  
 タラシメントナシタルニ非ザルヲ得ンヤ然ラバ則チ管ニ  
 人類ノミナラズ天帝自カラモ此社會ノ爲ニ至正至公ノ賞  
 罰ヲナサントノ心底ナリト此論モ亦吾人ヲ感服セシムル  
 ノ勢力ナキナリ

論者幸ヒニ議論ノ両面ヲ熟思セヨ良心ナルモノヲ具備シ

ヲ能ク同類トノ交際ヲ親密ニシ家ヲ起シ國ヲ建テタルモ  
 ノ、背面ニ當リテ之ヲ幾倍スルノ人民ガ此良心ニ乏シク  
 禽獸ト相去ルコト遠カラズシテ未ダ社會ヲナササルニ已ニ消  
 滅シテ其跡ヲ留メザルモアリ又一旦一社會ヲナシテモ其  
 道德漸ク澆季ニ趣キ人々ノ道德心ハ殆ンド絶無トナリテ  
 滅亡ニ歸シタルモアリ然ラバ唯ダ現在ノ社會ノミヲ見テ  
 其人類皆相當ノ道德アルガ故ニ創物者ノ意志ハ蓋シ公平  
 無私ノ賞罰ニアラント云フハ蓋シ偏見ナリト云フ可シ若  
 シ天帝ニ此意志アリトセンカ獨リ現在人民ノミナラズ仆  
 レテ跡ナキ國民ニモ豫カシメ之ヲ賦與シテ其不幸ナル滅

亡ナ防禦スベキ理由ナルニアラズヤ或ル者ハ良心ナクシ  
 テ消滅シ他ハ良心アリテ隆盛スト云フヲ知ラバ天帝ノ  
 意志ハ彼ニアルカ此ニアルカ未ダ容易ニ断定ス可ラズ何  
 ソ今日ノ人ニ良心アルノ事實ヲ以テ天帝ハ至公至正ナ  
 リト云フ證トナス可ケンヤ  
 且ツ夫レ論者ニ百歩ヲ譲リ人皆天性良心ヲ有シ古ヨリ此  
 天性ナカリシガ爲メニ其生存ヲ不充分ニシタルモノ一人  
 一家一國モナシトスルモ吾人ハ天帝ニ賞罰ノ意志アルヲ  
 ナ信用スル能ハザルナリ蓋シ宇宙ノ萬象ハ其有形ナルト  
 無形ナルトヲ論セズ其最終ノ原因ハ之ヲ天帝ノ意志ニ歸

無量日  
 耶穌教徒  
 無據所可  
 降伏論門

セザルヲ得ズ然レバ此社會ニ善人ノ生存スルモ天帝ノ所  
 爲ニ出ヅルナリ此世界ニ惡人ノ出現シテ種々ノ害毒ヲ同  
 類ノ上ニ普及スルモ其遠因ヲ極ムレバ是又天帝ノ意志ニ  
 歸セザルヲ得ザルナリ此ノ如ク考按ヲ下シタレバ天帝ニ  
 賞罰ノ意アリト云フヲ想像ヲモナス能ハザル理論ナルヲ  
 知ルベシ其理他ナシ人世ノ一政府ガ刑法治罪法ヲ設ケテ  
 勸善懲惡ノ具ニ供シ以テ社會公衆ヲ保護セントスルハ是  
 斷乎トシテ害惡ノ種子ヲ社會ヨリ一掃スル能ハザルガ故  
 ニ種々複雑ノ手段方法ヲ施シテ漸次ニ道德ノ改良ヲ冀望  
 スルニ因ルナリ今願ミテ天帝ト害惡トノ關係ヲ見ルニ全

少法官ト害惡トノ關係ニ異ナラズシテ万能ノ天帝ヲ除去  
 シテ別ニ害惡ノ原因ナシトスレバ天帝自ツカラ之レヲ絶  
 ツトハ極メテ易々ヲラン俄然此世界ヲ變ジテ道德世界ト  
 ナスヲ得可キナリ然ルニ己レ自カラ或ル人類ニ害惡ヲナ  
 サシメ其惡業ヲナスヲ見テハ怒リ之ヲ刑罰ニ處置スルハ  
 恰カモ自カラ求メテ粗末ナル家ヲ建テ其成就スルニ及ン  
 デハ其粗末ナルヲ憤懣シ之ヲ破壊スルト一般ナリ此ノ如  
 クナラバ始メヨリシテ家ヲ建テザルニ過カザルナリ彼ノ  
 如クナラバ始メヨリシテ罪惡ヲナサシメザルヲ可トス自  
 ラ罪惡ヲナサシメテ之ニ嚴重ノ刑罰ヲ附シテ罪惡ヲ止メ

シメントスルハ實ニ兒戲ニ類スルノミ吾人ハ百方考案ヲ  
 回グラスモ之ヲ以テ全智全能大慈大悲ナル活神ノ所爲ト  
 ハ認定スル能ハザルナリ是故ニ假令人類ノ精神ト身体ト  
 ハ其死生ヲ同一ニセズ精神ニ至リテハ不朽ニシテ未來ア  
 リトスルモ尙ホ天帝ガ此精神ノ賞罰ヲナサソルヲ伺知ス  
 ルヲ得ルナリ  
 然レモ若シ吾人ガ耶蘇教徒ノ所謂未來ハ果シテ在ルベキ  
 ヤ否ヤノ疑問ヲ提出センカ有神論者ニハ非常ノ迷惑ヲ來  
 スナラン吾人ハ天帝ニ賞罰ノ意志ナシト信ズ者ナレバ假  
 令未來アリトスルモ尙ホ地獄極樂ノ賞罰ハ決シテ之レ無

小兒之手  
如挫之可  
關平容事  
乎

神ヲ信ズルナリ然レモ天帝ニ賞罰ノ意志アリトナス論者  
ニ取リテハ未來ノ有無ハ實ニ此問題ニ大關係ヲ有ス若シ  
精神ヲシテ身体ト共ニ朽敗セシメバ未來ニ地獄極樂ノ現  
存スルノ理由ナシ故ニ未來ノ賞罰アリト云フニ先ダ豫  
シメ未來ハ在ルモノナリト云フ確証ヲ舉示スルノ責任ア  
リ然リ而シテ彼レ有神論者ハ此責任ヲ盡スヲ得ルカト思  
考スルニ蓋シ甚ダ保証シ難シ其證據トシテ提出スル所ヲ  
見ルニ皆悉無據ノ論ニアラザルハナシ之ヲ駁撃シテ論者  
ヲ感服セシムルハ易々ノ業ナリト信ズレモ若シ假令未來  
アリトスルモ別ニ反對論者ヲ閉口セシムルニ屈竟ナル論

鋒アリ又一ツニハ議論漸ク冗長ニ涉ルノ恐アルニヨリ此  
問題タルヤ論者ニ取リテハ非常ノ大關係ヲ有スルニモ拘  
ハラズ吾人ハ之ヲ此ニ論明セズ吾人ハ論者ニ向テ切ニ未  
來アリト云フ證據ヲ提出セラレシトテ冀望スル必要ナキ  
ガ如シ嗚呼天帝ヲシテ假リニ吾人々類ノ如ク百方策略ヲ  
廻ラヌモ社會ヨリ惡人ヲ一掃スル力ナキヲ以テ止ムヲ得  
ズ刑法ヲ設ケ治罪法ヲ作り出シ之ヲ實行スルノ役人ヲ置  
キ其他種々ノ混雜シタル方法ヲ設ケズンバ道德ノ改良ヲ  
謀ル能ハザル不完全ノ者タラシメバ則チ天帝ガ人類ノ如  
ク賞罰ヲナシテ徐々ニ道德ノ上進ヲ謀ルノ意志アリト云

フ論モ稍ヤ理屈アルガ如クナレモ論者自カラ天帝ハ全智  
 全能大慈大悲ト假定スルニアラズヤ此社會ニ善人アルモ  
 惡人アルモ其源因ヲ問尋スレバ皆天帝ノ意志ニ歸スルニ  
 アラズヤ自カラ善人ニ善ヲナサシメ其善ヲ見テハ喜ビ死  
 後之ヲ天堂ニ引導シ自カラ人ニ惡ヲナサシメ其惡ヲナス  
 ナ見テハ怒リ豫テ設置アル地獄ニ落シテ之ヲ罰シ自然ト  
 道德ノ改良ヲ謀ルトハ豈全智全能大慈悲トモ云フベキ者  
 ハ所爲ナラシヤ其目的果シテ道德世界ヲ作出スルニアラ  
 バ最始ヨリ惡人ヲ作ラザル答ナリ自ラ求メテ惡ヲ作出シ  
 其惡ヲナスヲ見テハ怒リテ之ヲ罰ス豈ニ大能タル天帝ハ  
 然焉

樂水曰  
 天帝之價  
 值至是判  
 然焉

所爲ナラシヤ是豈活神ノ意志ナラシヤ有神論者ヨ深ク反  
 省スルアラバ轉迷開悟スルニ至ルベシ然レモ今退テ此道  
 理ト耶蘇教トノ關係ヲ熟思スルニ全ク相反對シ此理一度  
 明瞭ナルニ至リ人類ノ心ヲ照ラサバ耶蘇教ハ烈火ニ逢タ  
 ル霜雪ノ如ク忽氷解シテ痕跡ナキニ至ラン想フニ天帝ハ  
 全能ナリト云フ證據ナシトノ議論ハ幾分カ耶蘇教ニ毀傷  
 ナ加フ可キモ之ガ性命ヲ墮スベキカナシ天帝ハ大慈悲ナ  
 リト云フ證據ナシトノ議論ハ幾分カ耶蘇教ニ動搖ヲ與フ  
 ルト雖モ之ヲ破壊スルノ勢力ナシ獨リ第三ノ議論即チ全  
 智全能大慈悲ノ天帝ハ決シテ賞罰ノ意志及行爲アルベカ



無量曰  
空理空想  
又無可取

ラズト云フ可キカ如シ如何トナレバ此說一度行ハレテ未  
來ノ賞罰ナシト一定ナスニ於テハ祈禱モ禮拜モ此世ニア  
リテ一身不亂ニ極樂往生ヲ哀願スル事モ皆は無益ノ勤勞  
ナレバ之ヲ利用シテ商業工業ヲ勉強スベシ斯ノ如キ無益  
ナル宗教不道理ナル宗教ノ爲ニ費ヤス金錢ハ之ヲ他ノ有  
益ノ事業ニ利用スルカ又ハ宗教ニテモ有益ニシテ且ツ道  
理ニ適合シ人心ヲ維持スルニ足ル宗教ニ用ユベキナリ幾  
万ノ耶蘇教徒其是迄宗教ノ爲ニ費消シタル莫大ノ勤勞モ  
時間モ財產モ悉皆水泡ニ歸スルヲ見出シ失望落膽ノ余リ  
自ヲ欺キタルヲ悔悟シ僧侶ノ爲ニ欺カレタルヲ憤懣スル

不都合不体裁ニ陥落スベケレバナリ此故ニ耶蘇教ノ僧侶  
ハ勿論一般ノ信徒トモ自然利害ノ情ニ支配セラレテ虚心  
平氣ノ判斷ヲナス能ハズ故ニ討論ノ際窃カニ自說ノ勝利  
ヲ得テ平生ノ勤苦ノ水泡ニ歸スルヲキキ熱望スルノ情ナ  
キ能ハズ己ニ此ノ如キ冀望ノ念慮ヲ議論ノ間ニ挾ムトキ  
ハ己レニ都合能キ論ハ道理聞ニヘレニ不都合ナル論ハ  
不道理ナルガ如ク思考サルハ是人情ノ免カル能ハザル  
所以ニシテ斯ノ如キ時ハ無私辨決ヲナスヲ易々ナラズ是  
ヲ以テ此ノ如キ人ニ取リテハ吾人公平ノ議論モ自カラ不  
道理ニ聞ユルナラン然リト雖モ不偏不黨ノ論者ヲ以テ之

ヲ判断セバ必ラズヤ天帝ニハ至正至公ノ賞罰ノ意志モナク又所爲モナク隨テ地獄天堂ノ思想ノ據所ナキヲ知ル可キナリ假ニ偏見ノ論者ト雖も眼目シテ深思熟考スルトキハ必然吾人ノ言ノ妄ナラザルヲ覺悟スルナラン歟

然レモ或ル論者ハ曰ン道理ハ兎モ角モ我心中決シテ無神論ヲ信ズル能ハズ百方思案ヲ廻ラスモ我有神ノ信仰ハ依然トシテ其勢力ヲ墜サバルノミナラズ幾億ノ耶蘇教信徒モ千百ノ辨難詰問ニ遭遇シテ其理愈ヨ屈スレバ其說愈ヨ堅固ニシテ如何ニシテモ無神ノ論ニ心服スル能ハズトスレバ道理ハ暫ク措キ信仰上ニ於テ天帝ハ存在セリト云ハ

無量曰  
亂暴言取  
不足又窮  
鼠墜猫之  
例乎

ザル可ラザルナリト此論タルヤ極テ亂暴ノ言ナレモ耶蘇教論者ガ其他人ニ攻撃セラレテ如何トモスル能ハザル時ハ常ニ逃込ム所ノ遁辭ナレバ吾人ハ簡單ニ之ヲ論駁シテ以テ天帝有無ノ判断ヲナシ了ラント欲スルナリ抑モ前論ノ如ク信仰ト道理ト齟齬スル時ニハ信仰ヲ正直ナリトシテ道理ヲ排斥スベキヤ將タ道理ノ言フ所ニ從フテ信仰ヲ非難スベキヤ此二者ノ問題ヲ思考スルニ吾人ハ元來道理ヲ以テ萬事萬物ヲ決定スルノ標準トナシント欲スルナリ耶蘇教信者自身モ亦其實吾人ト同說ナルヲ信ズルナリ蓋シ生テ天地間ニ享有スル人類ハ其數幾億ナルヲ知ラズ耶

弄花曰  
以道理標  
決萬事可  
謂格言乎

蘇教ヲ信仰スルノ深キ遂ニ道理上ヨリ之ヲ判断スル能ハ  
 ザルニ陷落スル者ハ僅々其一部分ノミ其多數ハ或ハ回々  
 教或ハ偶像教或ハ猶太教或ハ波羅門教或ハ佛陀教ヲ信奉  
 ス然リ而シテ其信仰ノ激烈ナル耶蘇教徒ニ優等ノモノア  
 リテ劣等ノ者ナキハ是レ争フ可カラザルノ事實ナラズヤ  
 然ラバ若シ人ノ道理心ヲ輕ンジテ信仰ノ下ニ置キ道理ニ  
 因テ諸信仰ノ是非ヲ決定セザルトトナサンカ耶蘇教徒ハ  
 信仰モ耶蘇教ニ非ザル者ノ信仰モ共ニ是ナリト云フベキ  
 ナリ天下豈此ノ如キ道理アラシヤ想フニ耶蘇教徒モ此道  
 理ヲ知ラザルニ非ラズ現ニ道理ニ因テ他宗ノ非ヲ唱導シ

耶蘇教徒  
 信道理我  
 又信道理

道理上ヨリ説教ヲナシテ衆人ヲ改宗セシメントスルヲ見  
 レバ彼モ亦其實ハ道理ニ因テ万事方端ノ道理ヲ決シ己カ  
 信仰ノ是ニシテ他宗ノ信仰ハ非ナリト云ハントスルヤ必然  
 道理ニ訴ヘテ之ヲ決定スルニアラズヤ然バ則テ論者ハ已  
 ニ吾人ト同説ナルガ故ニ或ハ心理學上ヨリ密雜ナル議論  
 ナシテ信仰ノ何物タルヲ説キ其因テ來ル所ヲ述ベ又哲  
 學上ヨリ道德ノ何物タルヲ論シ其信仰ニ比較セバ如何ニ  
 確實ナル者ヲ論ズル必要ナキナリ唯ニ吾人が有神論ニ切  
 望スル所ハ他ナシ論者ノ實驗スルガ如ク信仰ハ非常ノ勢  
 カヲ以テ人心ヲ支配シ常ニ道理ノ判断ヲ誤ラシムルノ事

有神論  
 本陣破脫  
 兜降伏論

情アハバ或ル信仰ハ非ナリト覺悟スルモ容易ニ之ヲ一擲  
 スル能ハサルハ是レ人情ノ已ニ得ザル所以ナリ此ノ故  
 ニ有神論者宿昔ノ信仰ヲ放棄シテ斷然無神ノ論ニ服從ス  
 ルハ甚ダ爲シ難キモノアラシカ然レモ幸ヒニ千思万考シ  
 テ此問題ヲ研究シ道理ヲ以テ信仰ニ打テ勝ツベキ適當ノ  
 判斷ヲナシ衆人ヲ欺クナク自ラ欺クナカラシム是吾人ガ  
 世ノ有神論者ニ向テ切望スル所ナリ論者以テ如何カトナ  
 ス吾人ノ議論決シテ此ニ止マラズ今ヨリ多々益々辨ゼン  
 然レモ讀者諸君ノ有神論者ト無神論者ト中立論者トヲ問  
 ハズ若シ吾人ノ無神論ヲ讀ンデ多少共利益スル所アラバ

弄花曰  
 爲佛之再  
 來照四海  
 人民始成  
 安心立命

吾人ハ我ニ寸功アリテ能ク尺罪ノ萬分ヲ補フニ足レリ唯  
 タ然ラズシテ文章ノ拙劣ヲ評シテ其說ノ如何道理ノ如何  
 ナ咀嚼セザル者ハ我ガ益友ニアラザルナリ讀デ此ニ來リ  
 以テ覺悟スル所アレバ當十九世紀ノ中村信次郎ハ佛教再  
 興教法改革ノ爲メニ彌陀如來ノ化身シテ万物ノ苦惱ヲ濟  
 度センタメ再來セシヲ知ルニ至ルベキナリ夫レ佛法ノ大  
 難非意ニ出ントハ蓋シ今ノ時代ナルベシ請フ諸君將來ヲ  
 期シ悱然トシテ愛國護法ノ精神ヲ奮ヒ彼不淨說法ヲ一洗  
 シ純ラ道德ノ真髓ヲ躬行シア瞬時モ教家ノ主眼ヲ失ハズ  
 務メテ社會ノ人民ニ卒先シテ主トノ風化ヲ幫助シ時機ニ

弄花曰  
真正之自  
由於是乎  
顯

適○合○シ○テ○活○潑○ニ○此○廣○大○無○邊○ナル○佛○教○ノ○真○面○目○ヲ○實○施○シ○之  
カ○爲○ニ○終○世○形○体○ヲ○犧○牲○ニ○供○シ○テ○眼○前○ニ○育○民○ノ○祥○瑞○ヲ○宇○内  
ニ○呈○セ○バ○管○ニ○雪○冤○ノ○一○舉○ニ○止○ラズ○法○暉○愈○々○光○顯○シ○遂○ニ○黃  
金○世○界○ヲ○現○出○ス○ル○ニ○至○ラ○ン○真○理○公○道○ヲ○重○ン○シ○眞○正○ノ○最○大  
幸○福○ヲ○貴○ブ○ノ○士○夫○ノ○速○ニ○來○リ○テ○我○ト○共○ニ○極○樂○セ○ヨ○ク

一哲學 無神概論終

### 跋

外教之入我邦也苟杞憂之士競事之  
撲滅筆以破之口以擊之雖然未曾有  
其理能的誅彼肝膽者也豈可堪慷慨  
哉適有友人中村氏者主張有神之架  
空也久矣遂至著此書予閱焉一過畢  
拍掌曰誠氏之說中彼膏肓焉蓋如伊

蘭林之臭壓旃檀之香乎夫佛者充塞  
宇宙而眞理之所達也苟欲明眞理則  
除佛何適中村氏之此舉雖不出於信  
佛乎亦謂通於佛理者可歟

明治二十年八月

稻葉氷香誌

明治二十年八月二十六日版權免許  
明治二十年十一月 出版

茨城縣平民

著者 中村信次郎

大阪府北區中之島三丁目  
三番地寄留

京都府平民

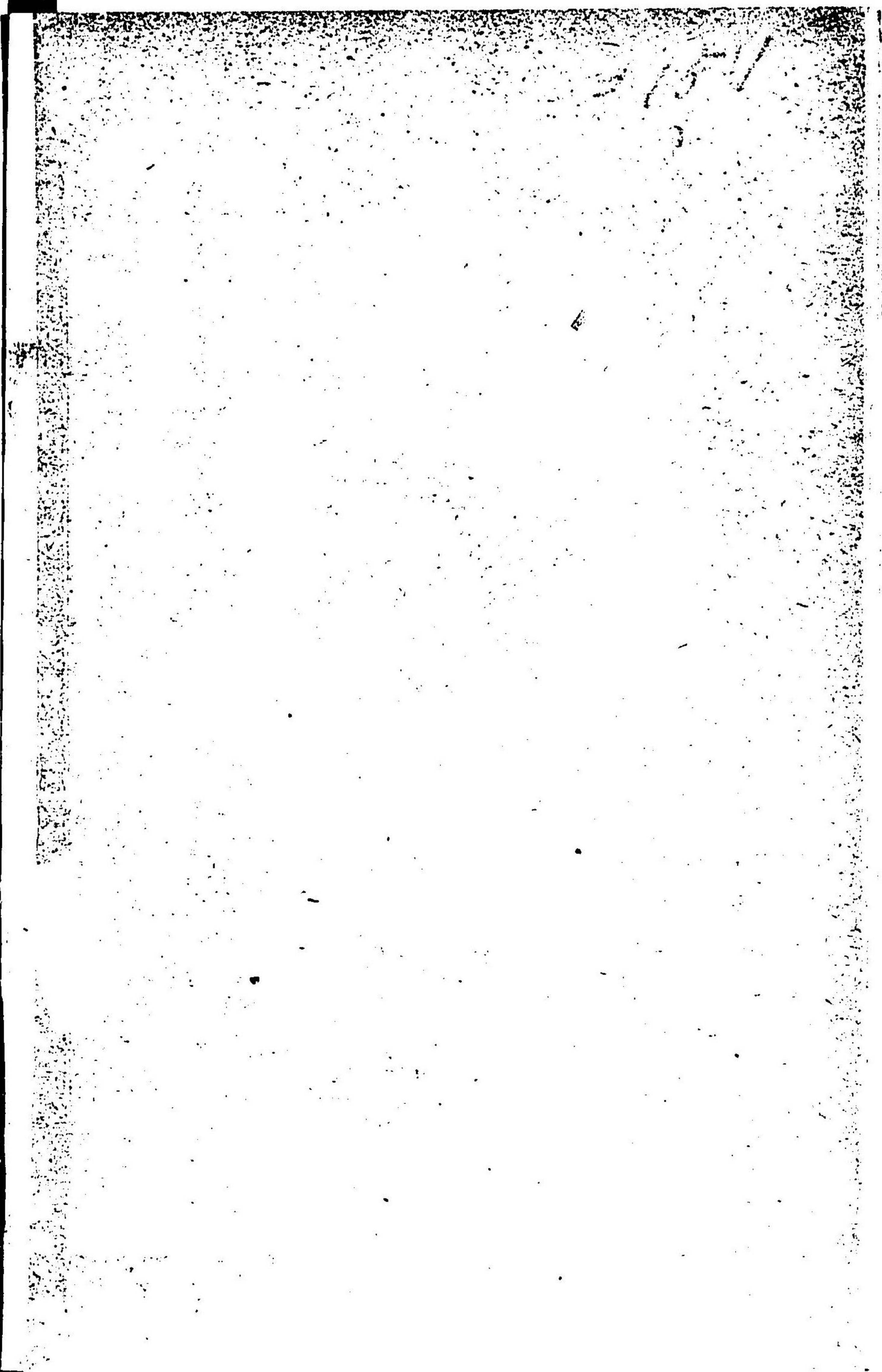
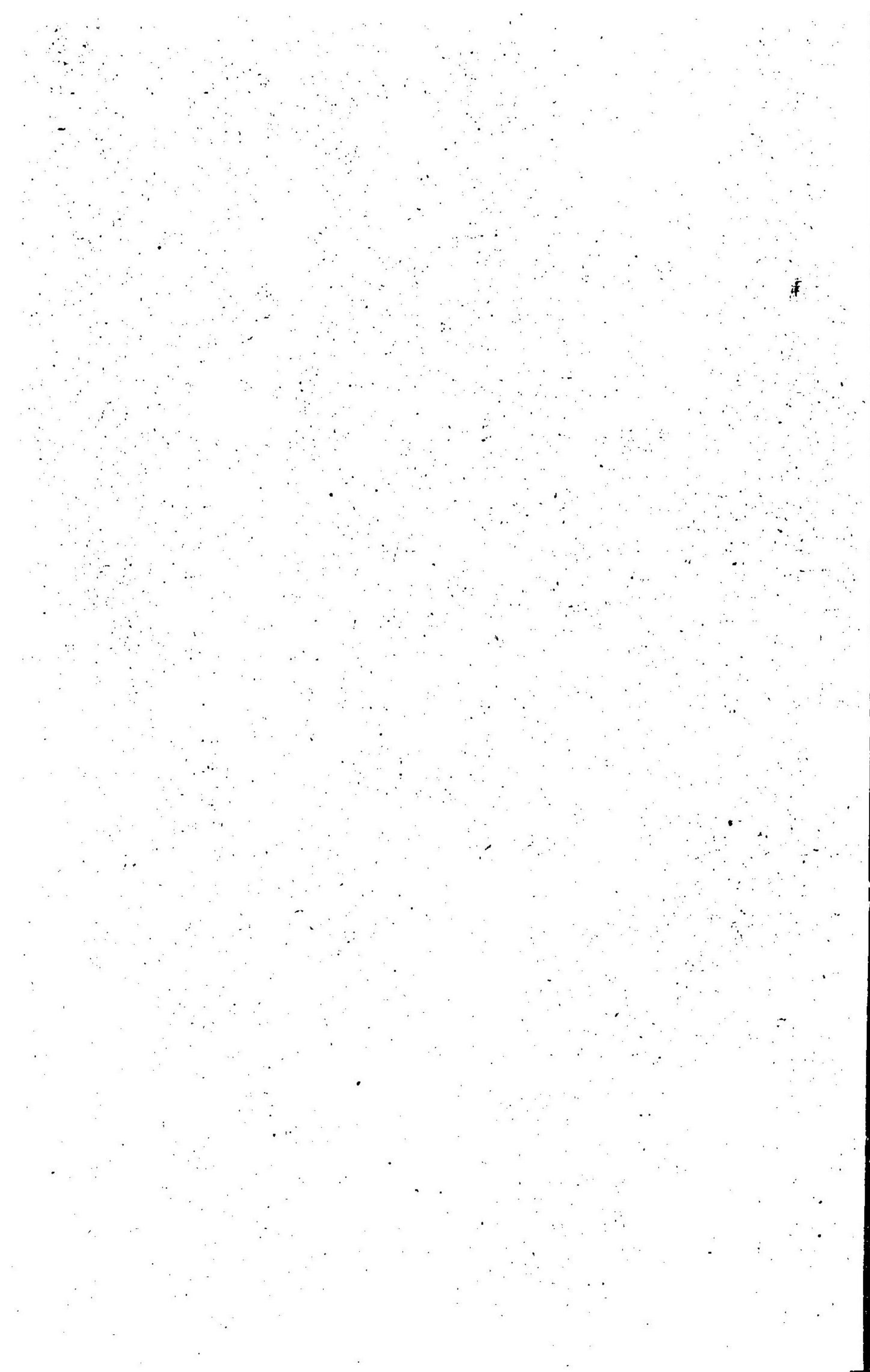
出版人 大淵浪

大阪府東區末吉橋通三丁目  
十五番地

大阪心齋橋北詰四番地

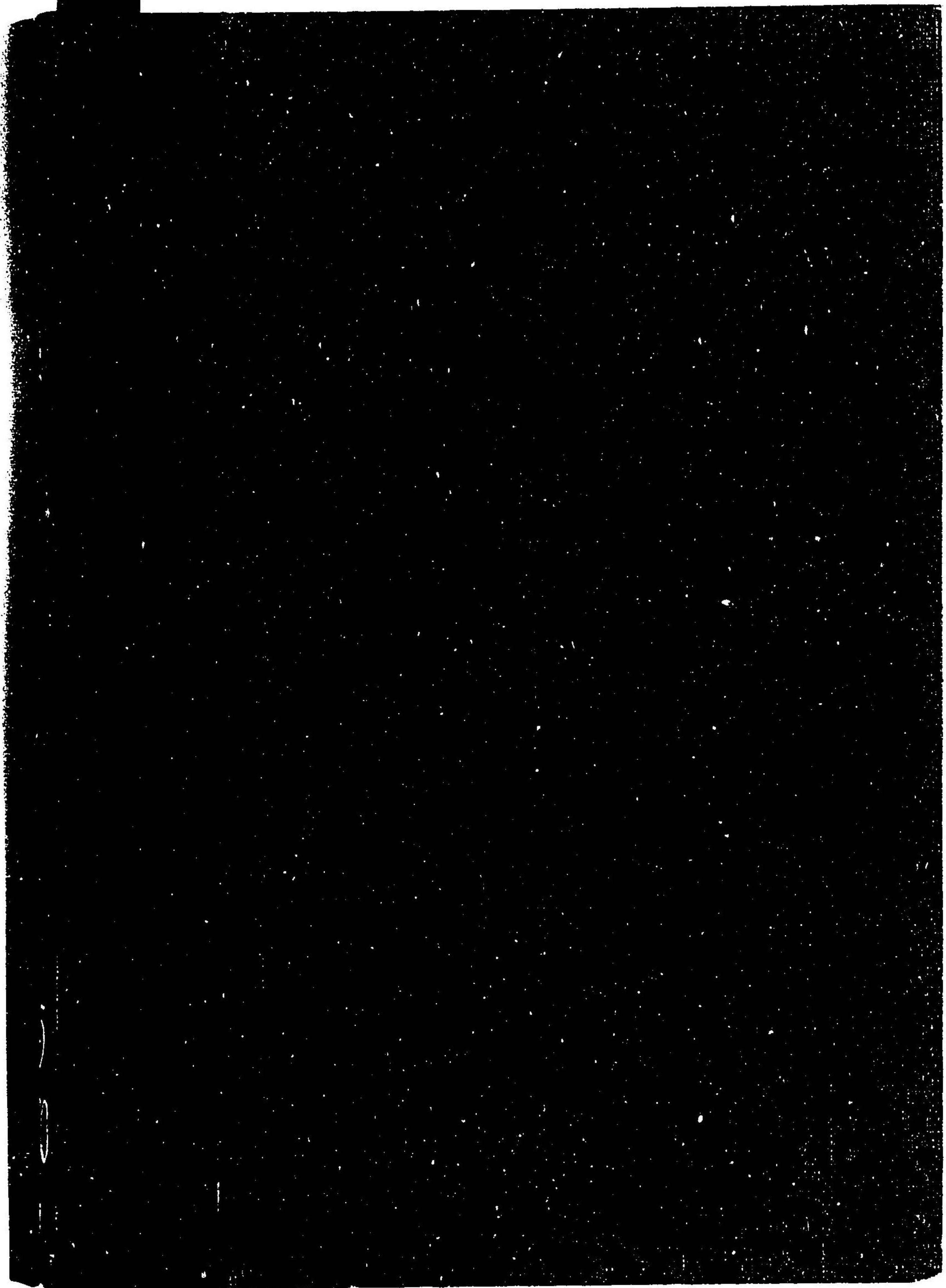
發兌所

駸々堂本店



25  
470





25  
470

013772-000-9

25-470

無神概論 ( 哲学一斑 )

中村 信次郎 ( 柳塢 ) / 著

M20

ABA-0262



30.12.42